



**HEXAGON**  
MANUFACTURING INTELLIGENCE

---

**4.0**

- リリースノート -





# 目次

リリースノート .....	1
推奨システム要件 .....	5
事前に必要なコンポーネント .....	7
<b>インストール SMART Quality .....</b>	<b>9</b>
概要 .....	9
ステップ1 : SmartQuality_Installer.exeを実行してウィザードを開始すること .....	9
<b>Step 2: 追加の前提条件をインストールする .....</b>	<b>12</b>
Microsoft .NET Framework 4.6のインストール .....	12
Adobe Reader XIのインストール .....	13
<b>Step 3: サーバーのインストール .....</b>	<b>15</b>
Q-DAS Desktopのインストール .....	16
Install SMART Quality .....	18
SMART Taskのインストール .....	28
別々に .....	29
<b>Step 4: クライアントのインストール .....</b>	<b>36</b>
PC-DMIS 2018.0 R2のインストール .....	37
Inspect 4.0のインストール .....	37
PC-DMIS-Q-DAS Converterのインストール .....	38

DataSyncのインストール .....	39
PULSEのインストール .....	41
Readme(リードミー).....	42
<b>トラブルシューティング.....</b>	<b>43</b>
概要 .....	43
HTTP エラー 500.19 または HTTP エラー 500.21 .....	43
SMART Qualityが正しく開かない .....	44
ポップアップが許可されていないため、ヘルプにアクセスできません。 .....	47
Internet Information Servicesの有効化.....	47
<b>付録.....</b>	<b>61</b>
SMART Quality 設定の定義 .....	62
高度なデータサーバー構成.....	64
データベースの設定.....	64
ログファイルの設定.....	68
サービス オプション .....	70
EventBusの設定 .....	72
DataServerサービスの再起動 .....	73
高度なパルスブローカ構成.....	74
Pulse Broker のプロパティ・ダイアログボックス .....	74

## 概要

ログファイルの設定.....	76
サービス オプション .....	77
<b>DataServer</b> .....	79
ポート .....	79
<b>高度なデータ同期設定</b> .....	80
ログファイルの設定.....	81
サービス オプション .....	82
<b>DataSyncサービスの再起動</b> .....	83
電子メールサーバーのセットアップ .....	84
ログオンの設定.....	87
認証の設定 .....	89
アプリケーションプールの設定 .....	92
<b>SMART Quality</b> .....	101



# リリースノート

## HxGN SMART Quality

4.0は、ソフトウェアの重要な開発リリースです。このリリースに関する詳細情報およびビデオチュートリアルについては、次のURLを参照してください。

<http://www.hexagonmi.com/products/hxgn-smart-quality>

次の情報は、SMART Quality 4.0の新機能または改良点を詳しく説明しています：

- 製品のサポート文書を**[製品]**タブに表示する機能が追加されました。サポート文書ファイルは、電子文書ファイル、画像ファイル、オーディオファイル、ビデオファイル、または他のファイルであってもよいです。サポート文書は、取り付けまたは操作説明書またはその他の情報を提供することができます (MMSCE-5611)。
- **[製品]**タブに測定ルーチンのサポートファイルを表示する機能が追加されました。これらのファイルは、取り付け情報、操作説明書、またはその他の情報を提供するためのものです(MMSCE-5542)。
- SMART Qualityは、完了したワークフロー ( MMSCE-5412 ) の一覧を表示するように、**[レポート]**タブに新しいワークフローレポートを追加しました。
- ワークフローの各ステップにユーザーを割り当てる機能が追加されました。測定機のワークフローを開始する場合にこれを行うことができます ( MMSCE-5532 ) 。

- **[私の仕事]**ダイアログボックスの**[リンク]**ボタンを使用してアプリケーションを開いて、ワークフローステップ ( MMSCE-5533 ) を完了する機能を追加しました。
- **[ワークフロー]**タブに、工場に関連するワークフローのみを表示する機能を追加しました ( MMSCE-5534 ) 。
- **ダッシュボード**タブに、測定機のタイルに関する現在のステータス情報 ( MMSCE-5410 ) とともに**Pulse**のステータスアイコンを表示する機能を追加しました。
- 生産性の概要、測定機の概要、測定機のステータス、通知、測定機OEE、工場OEE、測定レポート、および測定機のステータスチャート ( MMSCE-5538 ) のレイアウトを再配置するために、**ダッシュボード**タブのタイルをドラッグする機能が追加されました。
- **[工場の新規作成]**画面の**[ユーザデータを表示する]**チェックボックスでプライバシーを保護するためにユーザデータを表示または非表示する機能が追加されました。このチェックボックスは、**[レポート]**タブに**ユーザーレポート**を表示または非表示したり、**[すべてのファクトリダッシュボード]**画面 ( MMSCE-5505 ) に**[すべての作業者のパフォーマンス]**グラフを表示または非表示にします。
- 測定機を別の工場または部門 ( MMSCE-5540 ) に再配置する機能が追加されました。
- 測定機 ( MMSCE-5881 ) のシリアル番号、最後の校正日、および次の校正日を表示する機能が追加されました。



## 概要

- 新しい**校正のスケジューラ**ダイアログボックスを追加して、ワークフローを開始する測定機の校正スケジューラのタスクを作成しました ( MMSCE-5956 ) 。
- **校正のスケジューラ**ダイアログボックスを改良し、測定機の校正間隔時間 ( MM SCE-6347 ) の月と年オプションが追加されました 。
- 現在のワークフローステップにチェックリストをアップロードする機能が追加されました。このチェックリストには、ワークフローステップを完了するための項目が用意されます ( MMSCE-5955 ) 。
- 実行中に測定機のアイドル状態と例外状態を表示する機能が追加されました ( M MSCE-6114 ) 。
- 工場または部門内のすべての測定機の総稼働率 ( OEE )、可用性、およびパフォーマンスを表示する機能が**ダッシュボード**タブ ( MMSCE-6115 ) に追加されました 。
- [**ダッシュボード**]タブに新しい測定機ステータスチャートが追加され、工場または部門内のすべての測定機を選択された日付のステータスの変化を示す水平ステータスバーが表示されます ( MMSCE-6116 ) 。
- 工場全体のOEE、可用性、パフォーマンスを表示する機能が**ダッシュボード**タブに追加されました ( MMSCE-6117 ) 。
- PULSEイベントをよりよくサポートする2つの追加パラメータ ( PARAM4およびPARAM5 ) の支援を追加しました ( MMSCE-6153 ) 。
- 測定機の削除、測定機の作成、測定機の例外、測定機の再配置 ( MMSCE-6774 ) など、現在の工場の測定機アクティビティを表示するダッシュボードの**通知**パネルのパフォーマンスを向上させました 。

- 実行中のアイドル ( MMSCE-6114 ) を含むように追加測定機ステータスへのサポートが追加されました。
- SMART Quality構成ツールの問題を対処するように新しいSMART Quality Verificationツールを追加しました。このツールは、SPF接続、Q-DASライセンス、DataServerサービス、Pulse Brokerサービスなどをチェックします ( MMSCE-5404 ) 。
- ダッシュボードタブ ( MMSCE-6741 ) の測定機タイルに表示されるPulseセンサーアイコンにツールチップが追加されます。
- 2番目のクラッシュセンサーのサポートが追加されました ( MMSCE-6731 ) 。
- サインイン画面や新規アカウント画面 ( MMSCE-6759 ) などのすべてのパスワードフィールドにパスワードのピーク機能を追加しました。
- Pulse環境データのUTC日付のサポートが追加されました ( MMSCE-6371 ) 。
- SMART Qualityのワークフローの設定画面からワークフローテンプレートを設定する機能が追加されました ( MMSCE-5856 ) 。
- 下、上、右、後ろ、左、等角投影、正面、及び3次元回転 ( MMSCE-5347 ) などのさまざまなビューに対して、CADウィンドウを[製品]タブのCADウィンドウに回転する機能が追加されました。

# 推奨システム要件

## HxGN SMART

Qualityが機能するためには、同じ物理サーバーまたは仮想サーバー上にあるか、別々のサーバーに別々に配置できるアプリケーションサーバーとデータベースサーバーが必要です。また、これらのサーバーは、ネットワークに接続され、SMART Quality環境内に含まれるコンピュータにアクセス可能である必要があります。SMART Qualityのインストール中は、IT担当者にアクセスして、ITの問題が解決されたことを確認することをお勧めします。、IT部門はインターネットトラフィックがファイアウォールやサブネットに問題のないでこれらのサーバーと通信できるようにする必要があります。また、SMART Qualityのインストールには、データベースにアクセスするためのDBO ( データベース所有者 ) と読み取り/書き込み権限を持つSQLユーザーアカウントが必要です。

## アプリケーションサーバーのシステム要件

- オペレーティングシステム - Windows Server 2016およびWindows Server 2012。
- RAM - 32 GB
- CPU - クアッドコア以上のプロセッサ
- ハードドライブ - 500 GBのハードディスク空き容量
- インターネット情報サービス ( IIS ) -  
有効にされたIISマネージャコンポーネント

### データベースサーバーシステムの要件

- オペレーティングシステム - Windows Server 2016およびWindows Server 2012。
- **RAM** - 32 GB
- **CPU** - クアッドコア以上のプロセッサ
- **ハードドライブ** - 500 GBのハードディスク空き容量
- **Microsoft SQL Server** - Microsoft SQL Server 2014 64ビットまたはそれ以降

### クライアントコンピュータシステムの要件

- オペレーティングシステム - 64ビットのWindows 10、Windows 8.1、Windows 8、およびWindows 7
- **RAM** - 8 GB
- **Microsoft .NET Framework** - Windows対応のMicrosoft .NET Framework 4.6.1。Microsoft .NET Framework 4.6.1をお持ちでない場合は、SMART Qualityインストーラがそれをインストールします。
- **ブラウザ** - Google Chrome (推奨)、Mozilla Firefox、またはInternet Explorer 10以降

### アンチウイルス・ソフトウェア

Hexagon Manufacturing Intelligence社は、SMART

QualityをテストするためにSophosアンチウイルスツールを使用しました。ユーザーは他のアンチウイルス・ツールの性能を確認する必要があります。

<http://sophos.com/products/enterprise/endpoint/security-and-control/>

# 事前に必要なコンポーネント

## HxGN SMART

Qualityをインストールする前に、以下のコンポーネントをインストールする必要があります:

- Microsoft Windows Server 2012 R2 64-bit (Datacenterまたは標準版)
- Microsoft Windows ( x64 ) 対応のOracle Database  
12cリリース1 ( 12.1.0.2.0 ) またはMicrosoft Windows (x64)対応のMicrosoft SQL  
Server 2014 ( x64 )

SMART QualityはQ-DASライセンスを使用します。



# インストール SMART Quality

---

## 概要

このセクションではHxGN SMART

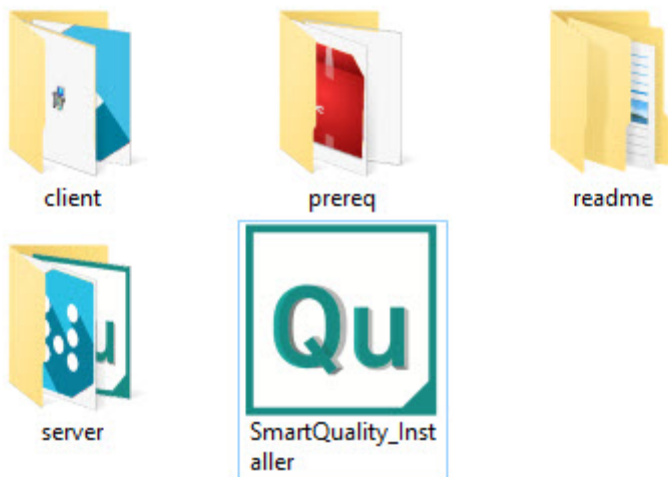
Qualityアプリケーションのインストールについて説明します。

---

## ステップ1 : SmartQuality\_Installer.exeを 実行してウィザードを開始すること

CDまたはDVDからインストールする場合は、**SmartQuality\_Installer.exe**をダブルクリックします。

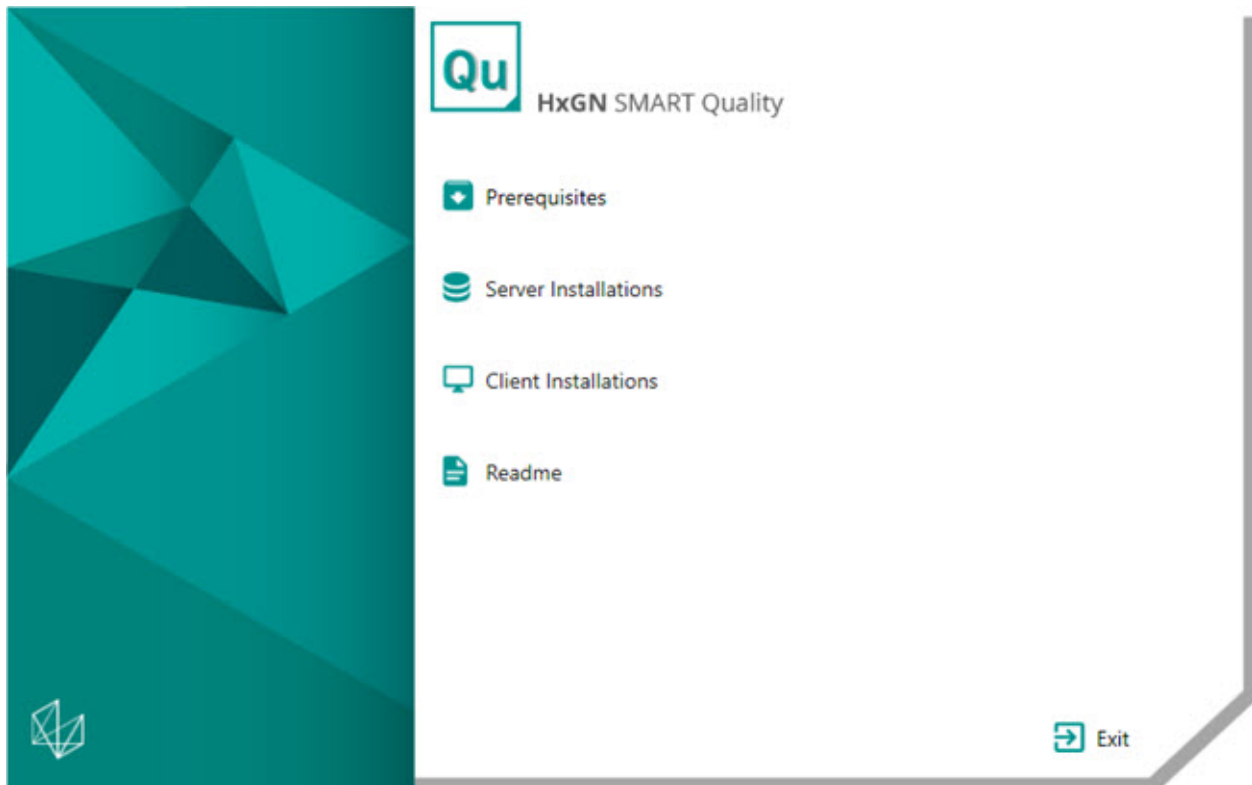
ダウンロード可能ファイルからインストールする場合、ダウンロードされたアーカイブから内容を抽出して**SmartQuality\_Installer.exe**をダブルクリックします:



*SmartQuality\_Installer.exe* ファイル

下記オプションを伴う **HxGN SMART Quality**画面が表示されます:

:





ステップ1 : SmartQuality\_Installer.exeを実行してウィザードを開始すること

- **前提条件 -**

このオプションは下記の事前に必要な追加コンポーネントがコンピュータにインストールされていない場合、それをインストールします:

- Microsoft .NET Framework 4.6
- Adobe Reader XI

- **サーバーのインストール -**

このオプションは以下のサーバーをインストールします:

- Q-DAS Desktop
- SMART Quality
- SMART Task

- **クライアントのインストール -**

このオプションは以下のアプリケーションをインストールします:

- PC-DMIS
- Inspect
- PC-DMIS-Q-DAS Converter
- DataSync
- Pulse

- **Readme -**

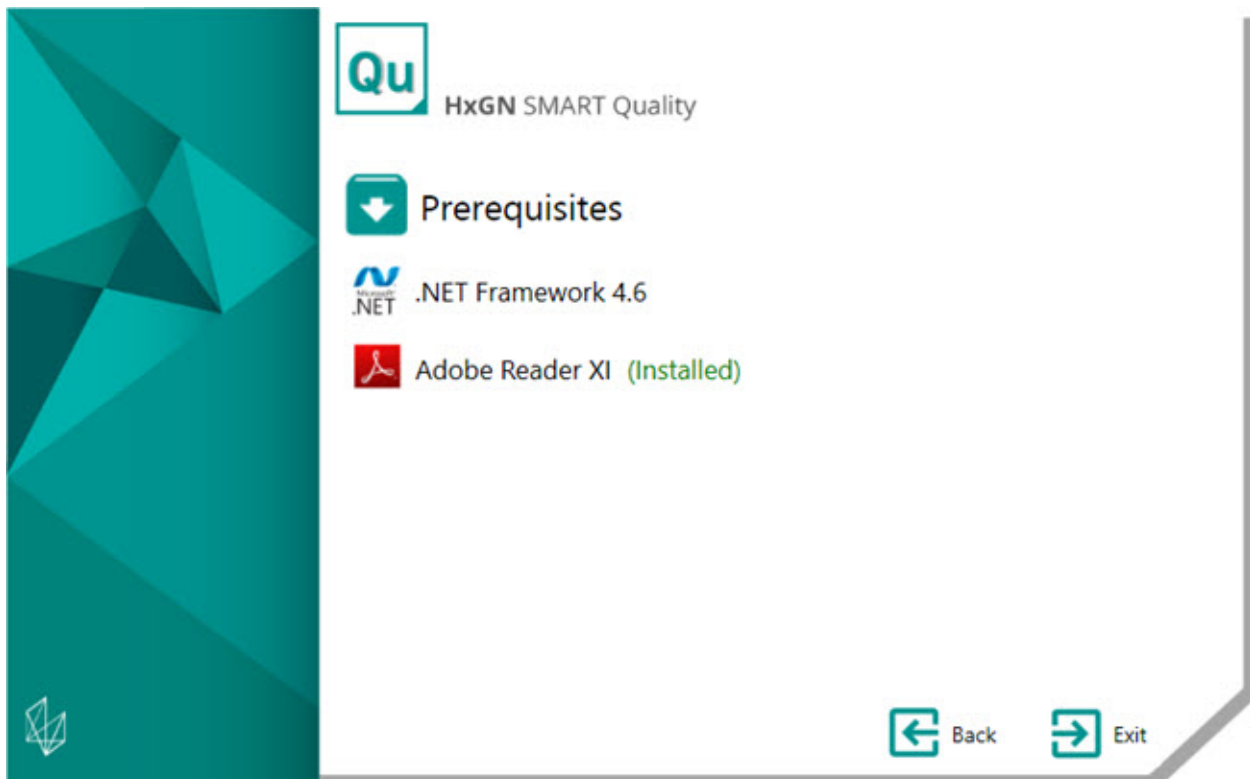
このオプションはインストールのガイドが含まれているフォルダを開きます:

- SMART Quality Readme
- PC-DMIS Readme
- Q-DAS Readme

## Step 2:

# 追加の前提条件をインストールする

メイン画面で**前提条件**をクリックして下記の画面を開きます:



ツールをインストール済みの場合は、そのツール名の隣に緑色のテキスト (インストール済み) が表示されます。

## Microsoft .NET Framework 4.6のインストール

このインストーラを使用すると、.NET Framework 4.6を個別にインストールする場合にインストールできます。

## Step 2: 追加の前提条件をインストールする

1. メインインストール画面で**.NET Framework 4.6**をダブルクリックして、インストールのプロセスを開始します。ファイルが一時ディレクトリに展開され、メイン設定画面が表示されます：
2. 使用許諾契約をご拝読して、同意します。次に**インストール**をクリックしてインストール画面を開きます。
3. インストールが完了すると、下記の終了画面が表示されます：
4. **完了**をクリックしてインストールプログラムを閉じます。

## Adobe Reader XIのインストール

このインストーラーでは、Adobe Reader XIをインストールしてHxGN SMART QualityでPDFレポートを表示できます。すでにPDF Readerを備えている場合、またはPDFレポートを持っていない場合は、Adobe Reader XIの必要はありません。

1. メインインストール画面で**Adobe Reader XI**をダブルクリックしてインストールプロセスを開始します。
2. ここで、メインセットアップ画面が表示されます。**[宛先フォルダの変更]**ボックスを使用して、別の宛先フォルダを指定できます。
3. **次へ**をクリックしてアップデートのインストール画面を開きます。
4. **[更新のインストール]**画面で、セキュリティ更新プログラムに適切なオプションを選択します：

- **アップデートを自動的にインストールする (推奨) -**

このオプションは自動的にAdobeからの定期的セキュリティアップデートおよび機能拡張アップデートをインストールします。

- **アップデートをダウンロードするのに、いつインストールするか選択できる -**

このオプションはアップデートを自動的にダウンロードしますが、インストールはしません。アップデートがダウンロードされたら、通知エリアからインストールすることができます。

- **通知するがアップデートのダウンロードおよびインストールの時期を自分で選択できるようにする -**

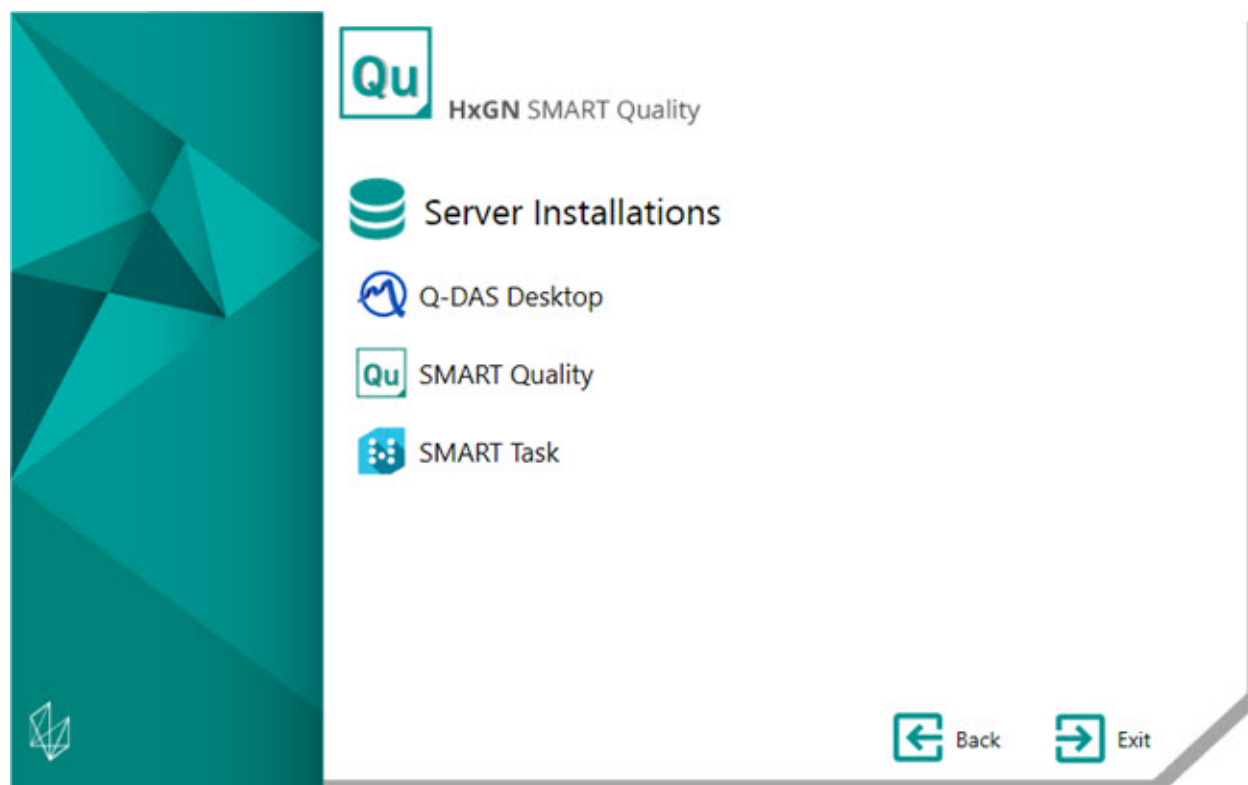
このオプションではアップデートをダウンロードしてインストールする通知エリアでの通知が提供されます。

- **アップデートを手動で確認してインストールする (非推奨) -**

このオプションはダウンロード、インストールまたは通知の提供を行いません。手動でアップデートを確認する必要があります。

5. **インストール**をクリックしてインストール画面を開きます。
6. インストールが完了すると、下記の終了画面が表示されます：
7. **完了**をクリックしてインストールプログラムを閉じます。

## Step 3: サーバーのインストール



**Q-DAS Desktop** - このオプションはQ-DAS

Desktopアプリケーションをインストールします。

**SMART Quality** - このオプションは、HxGN SMART

Qualityサーバーを構成する次のコンポーネントをインストールします：

- アプリケーション・サーバー及びIIS
- データ・サーバー
- Pulse Broker
- Q-DAS Web

インストーラは、SMART

Qualityアプリケーションも設定します。設定にはサイトの作成が含まれます。

**データベースサーバ及びSMART**

Qualityサーバが別々のコンピュータに存在する場合、SQLサーバはデータベースを作成できません。この問題を対処するには、「SMART Quality Databaseのインストール」を参照してください。

**SMART Task** - このオプションは、SMART

Taskアプリケーションをインストールします。

## Q-DAS Desktopのインストール

このインストールの詳細な手順については、「Q-DAS

Readme.pdf」ファイルを参照してください。Readmeを開くには、「Readme」のトピックを参照してください。

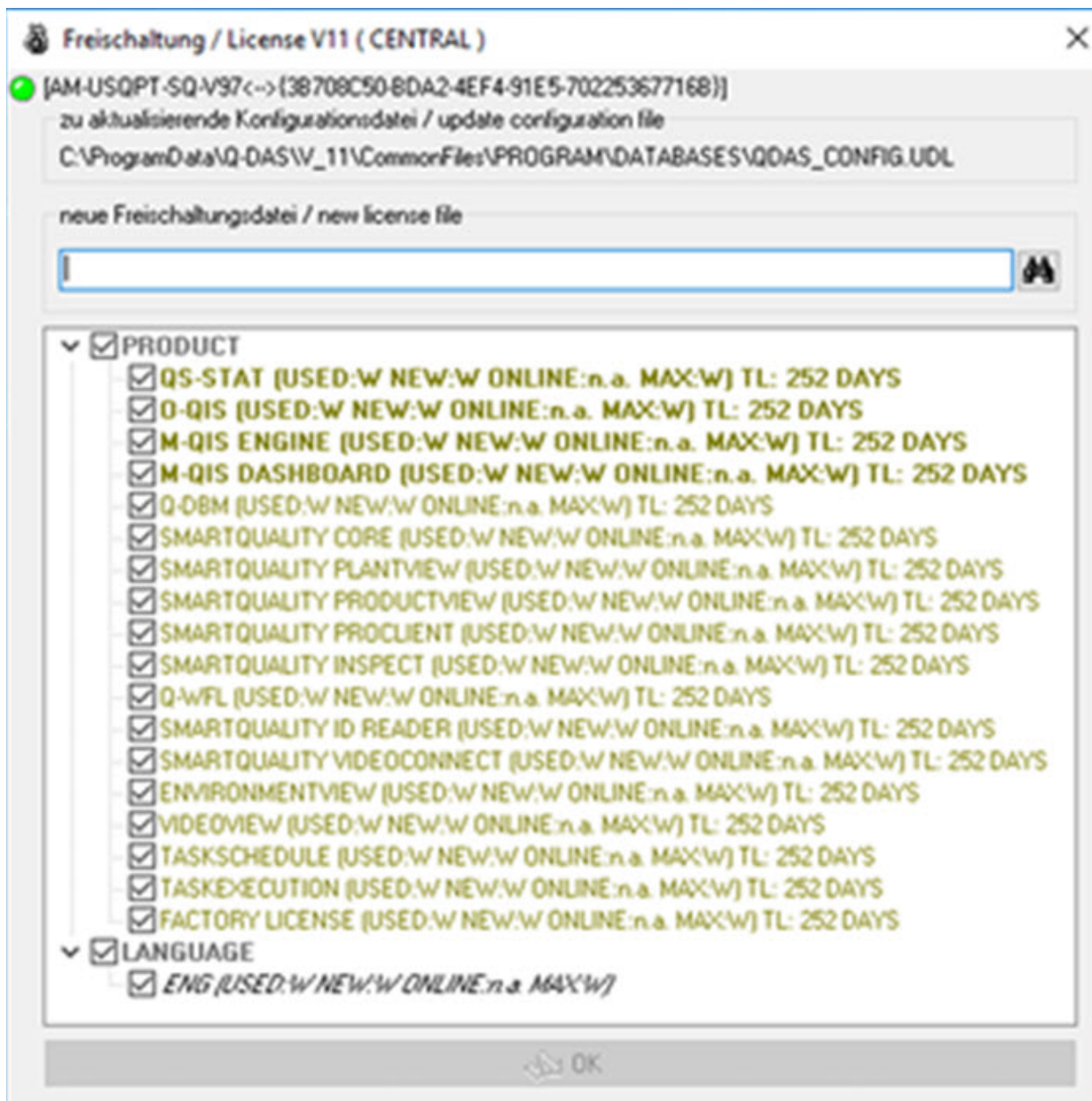
SMART

Qualityのコンポーネントをインストールするには、**Frieschaltung** (アクティベーション) ダイアログボックスの**製品一覧**から、必要なSMART

Quality機能を選択します。利用可能なSMART Qualityオプションは、**SMART**

**QUALITY CORE**から始まり、一覧の最後まで進むものです。

### Step 3: サーバーのインストール



要件:

- SMART Qualityの**QS-STAT**タブを表示するには、QS-STATライセンスが必要です。
- Q-DASデータベースに接続するアップロードツールを使用するには、Q-DBMライセンスが必要です。

## Install SMART Quality

### SMART Quality Serverのインストール

このオプションは、HxGN SMART

Qualityサーバーを構成する次のコンポーネントをインストールします：

- 段階1：追加ソフトウェアをインストールすること
- 段階2：SMART Quality ( Webアプリケーション ) をインストールすること
- 段階 3: SMART Qualityの設定

インストール中に、メインのSMART

Qualityセットアップアプリケーションには、進行状況を示す進行状況バーがあります

。段階2の場合、SMART

Qualityのセットアップでは、独自のプログレスバーで他のセットアップアプリケーションを開きます。段階 3では、設定画面が表示されます。

### 段階1：追加ソフトウェアをインストールすること

この段階では、HxGN SMART

Qualityサーバーのインストールが開始されます。インストールの最初の部分では、この追加ソフトウェアがインストールされます：

- **アプリケーションサーバー及びIIS -**

アプリケーションサーバーのインストールプロセスでは、Web

サーバーサポートを追加するオプションが提供されます。このオプションは、Windows Server



### Step 3: サーバーのインストール

2012に組み込まれているインターネット情報サービス ( IIS ) ウェブサーバーをインストールします。



#### Application ServerはWindows Server

2012にのみインストールされます。Windows Server

2012オペレーティングシステムがインストールされていない場合は、Windowsの機能を手動で更新する必要があります。Windowsの機能を更新する方法については、「インターネット情報サービスを有効にすること」を参照してください。

- **データサーバー -**

中央DataServerを使用すると、工場は1つのデータベースからすべての測定および環境データにアクセスできます。

- **Pulse Broker - Pulse**

Brokerは、環境データを記録し、DataServerデータベースに保存するWindowsサービスです。Pulseハードウェアをインストールした工場のすべてのCMMは環境データを送信します。Pulseは、温度、湿度、振動などのローカル環境に関するデータをローカルSMART Qualityサーバに送信します。Pulse Brokerは、将来の分析のためにこの情報を記録して保存します。

データを直ちに表示するには、[SMART Quality]の[Pulse]タブを使用します。

詳細な統計分析を行うには、Q-DASを使用することができます。

- **Q-DAS Web - Q-DAS**

Webアプリケーションは、テキスト形式の統計レポート及びチャート統計レポートの両方を生成し、測定結果を分析します。

追加のソフトウェアをインストールするには、次の手順を実行します：

1. メインインストール画面で**SMART Quality**をダブルクリックして、インストールプロセスを開始します。
2. 使用許諾契約をご拝読して、同意します。次に「次へ」をクリックして、「**追加ソフトウェアのインストール**」画面を開きます。
3. インストールする追加ソフトウェアのチェックボックスをオンにします。
4. **[インストール]**をクリックして、インストールを開始します。
5. インストールが完了すると、インストーラはすぐに**Q-DAS Web Setup Wizard**を開きます。次へをクリックして**端末ユーザーライセンス契約画面**を開きます。
6. 使用許諾契約をご拝読して、同意します。続いて、次へをクリックして**インストールのアドレスを選択画面**を開きます。  
  
[サイト] リストから、**デフォルト Web サイト**をデフォルトのままにします。  
  
**仮想ディレクトリボックス**で、ユーザーの**Q-DAS Web**ファイルの入ったディレクトリ名を指定します。デフォルトのディレクトリは**QDasWeb**です。
7. 次へをクリックして**保存先ホルダ画面**を開きます。インストールフォルダを変更することもできます。
8. インストールに必要な情報がすべて整ったら、**Q-DAS Webのインストールの準備完了画面**が表示されます。

## Step 3: サーバーのインストール

### 9. [インストール]

をクリックして、インストールを開始します。インストールが完了すると、下記の終了画面が表示されます：

### 10. 完了]をクリックしてウィザードを閉じます。次に、SMART

Quality ( Webアプリケーション ) のセットアッププログラムが開きます ( 段階2を参照してください ) 。

## 段階2 : SMART

### Quality ( Webアプリケーション ) をインストールすること

この段階では、HxGN SMART

Qualityサーバーのインストールを続きます。これはSMART

Quality ( Webアプリケーション ) をインストールします。

#### 1. このインストーラはすぐにSMART

Qualityセットアップウィザードを開きます。次へをクリックして**端末ユーザーライセンス契約画面**を開きます。

#### 2. 使用許諾契約をご拝読して、同意します。続いて、次へをクリックして**インストールのアドレスを選択画面**を開きます。

[サイト] リストから、**デフォルト Web**

サイトをデフォルトのままにします。

**仮想ディレクトリボックス**では、ユーザーがSMART

Qualityファイルが含まれているディレクトリ名を指定できます。デフォルト値はSmartQualityです。

3. 次へをクリックして**保存先ホルダ**画面を開きます。インストールフォルダを変更することもできます。
4. インストールに必要なすべての情報が揃ったら**SMART Quality**のインストールの**準備完了**画面が表示されます。
5. **インストール**をクリックします。インストールが完了すると、下記の終了画面が表示されます：
6. **完了**をクリックして、**SMART Quality ( Webアプリケーション )** インストールプログラムを閉じます。
7. **SMART Quality**サーバーのインストール画面が表示され、インストールの結果が表示されます。エラーが検出された場合、または必要な部品がインストールされていない場合、その結果はこの画面に表示されます。
8. メインの**SMART Quality**サーバーのインストール画面で**[閉じる]**をクリックします。**SMART Quality**の設定画面が開きます ( 段階 3を参照してください ) 。

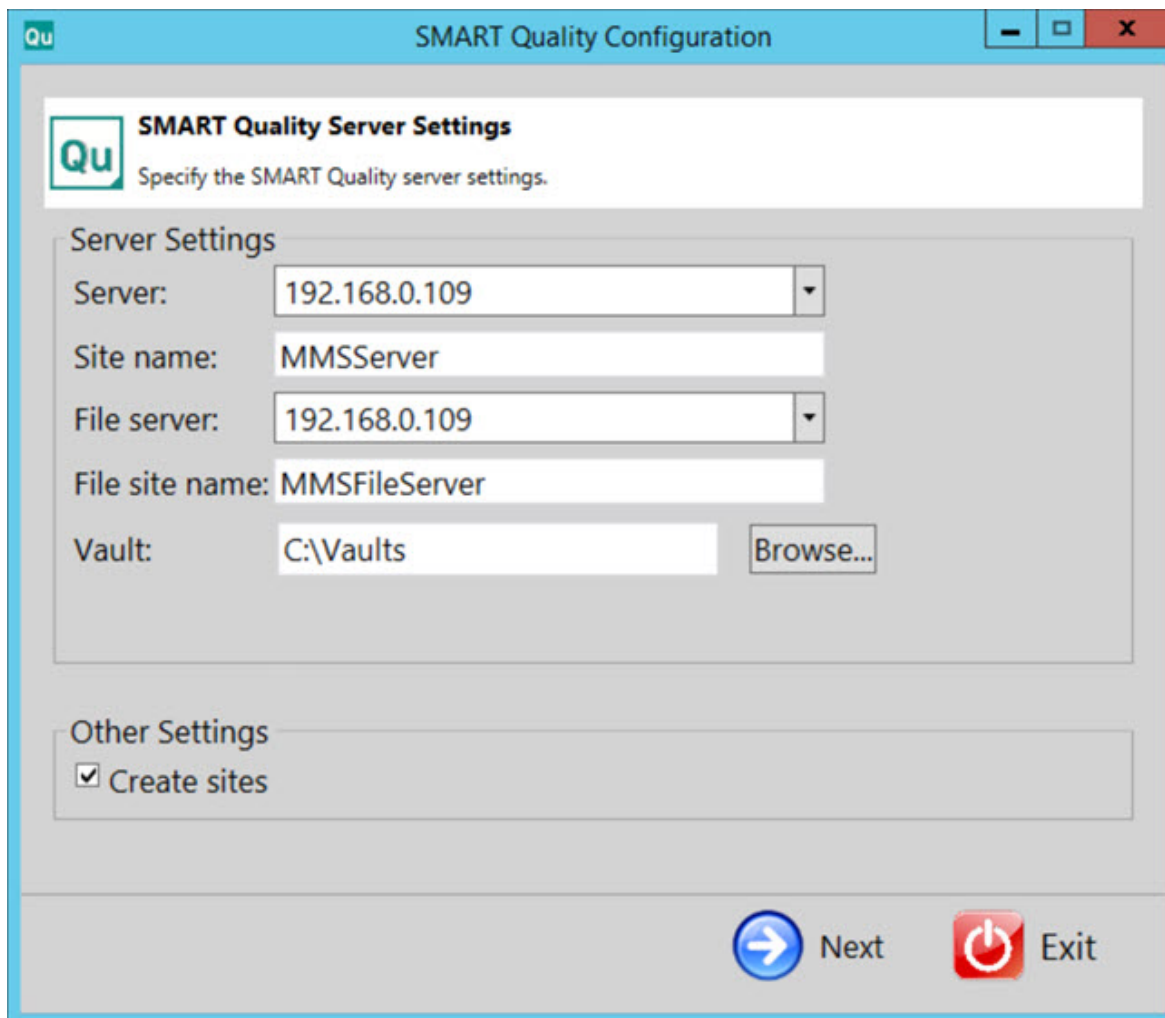
## 段階 3: SMART Qualityの設定

### HxGN SMART

**SMART Quality**サーバーのインストールが完了しました。この段階では、**SMART Quality**の設定、**SQL**サーバーまたは**Oracle**データベースを設定します。また、**SMART Quality**のWebサイトも作成されます。

1. **[SMART Qualityの設定]**画面が表示されます。

### Step 3: サーバーのインストール



The screenshot shows the 'SMART Quality Configuration' window. The title bar includes the 'Qu' logo and window control buttons. The main content area is titled 'SMART Quality Server Settings' with the instruction 'Specify the SMART Quality server settings.' Below this, there are two sections: 'Server Settings' and 'Other Settings'. The 'Server Settings' section contains five fields: 'Server' (dropdown menu with '192.168.0.109'), 'Site name' (text box with 'MMSServer'), 'File server' (dropdown menu with '192.168.0.109'), 'File site name' (text box with 'MMSFileServer'), and 'Vault' (text box with 'C:\Vaults' and a 'Browse...' button). The 'Other Settings' section has a checked checkbox for 'Create sites'. At the bottom right, there are two buttons: 'Next' (blue arrow icon) and 'Exit' (red power icon).

#### サーバーを設定 -

サーバへのアクセスを定義するには次のオプションを設定します：

#### サーバー -

サーバー名またはインターネットプロトコル ( IP ) アドレスを入力または選択します。

**サイト名** - サーバーのサイト名を入力します。

#### ファイルサーバー -

ファイルサーバーの名前またはIPアドレスを入力または選択します。

**ファイルサイト名** - ファイルサーバーのサイト名を入力します。

**ポルト** -

このオプションは、ポルトのフォルダを設定します。デフォルトはC:\Vault  
sです。

**サイトを作成する** - このチェックボックスを選択すると、SMART  
Quality用の追加のサイトを作成できます。

2. [次へ]をクリックして、[**SMART Quality**  
データベースシステム]画面を開きます：

The screenshot shows the 'SMART Quality Configuration' window. The title bar includes the 'Qu' logo and window controls. The main content area is titled 'SMART Quality Database System' and contains the instruction 'Specify the database type and associated system information.' Below this, there are several configuration options:
 

- An unchecked checkbox for 'Use existing database'.
- A 'Database type:' dropdown menu currently set to 'SqlServer'.
- A 'Site database server:' text box containing 'WIN-P50AVGG8SCG\SQLEXPRESS'.
- 'System user:' and 'System password:' text boxes containing 'sa' and '\*\*\*\*\*' respectively.
- An unchecked checkbox for 'Use Windows authentication'.

 At the bottom of the window, there are three navigation buttons: a blue 'Back' button with a left arrow, a blue 'Next' button with a right arrow, and a red 'Exit' button with a power icon.

### Step 3: サーバーのインストール

#### 既存データベースを使用 -

このチェックボックスを選択して現在のデータベースを使用します。

**データベースの種類** - リストからデータベースの種類:

**Oracle**または**SqlServer**を選択します。



この手順の残りについては、青色の項目は特に**SQL Server**に関するものです。赤茶色のアイテムは**Oracle**を参照してください。黒のアイテムは両方に共通です。画面イメージは**SQL Server**からのものです。

#### サイトデータベースサーバー / **Oracle Alias** -

データベースサーバーの名前を入力します。

#### システムユーザー -

このボックスは**既存データベースを使用**または**Windows認証を使用**チェックボックスを選択する場合、使用できません。ボックスにコンピュータのユーザー名を入力することができます。

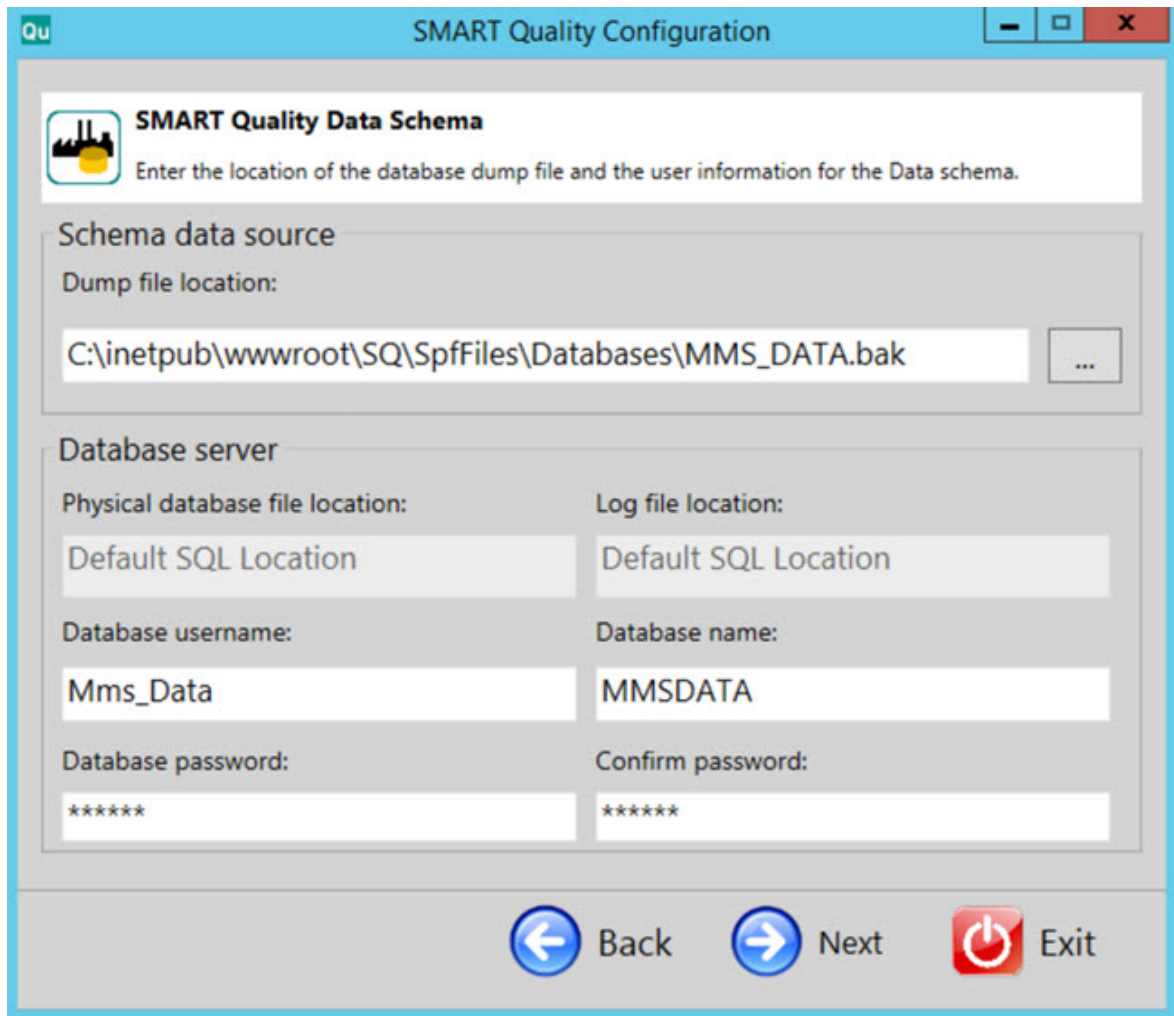
#### システムパスワード -

このボックスは**既存データベースを使用**または**Windows認証を使用**チェックボックスを選択する場合、使用できません。コンピュータのパスワードはボックスに入力できます。

#### **Windows認証**を使用 -

このチェックボックスを選択して、Windowsのユーザー名およびパスワードを使用します。

3. [次へ]をクリックして、[**SMART Quality**データスキーマ]画面を開きます：



**ダンプファイルの場所 -**

Oracleデータベースのダンプファイルを保存するディレクトリを選択します。

**物理データベースファイルの場所 -** データベースのディレクトリを入力します。

**ログファイルの場所 -** ログファイルのディレクトリを入力します。

**Oracleテーブルスペース -**

リストからユーザーのデータベースのデータを保存するテーブルスペースを選択します。



### Step 3: サーバーのインストール

#### Oracle一時のテーブルスペース -

リストからデータベースソート操作およびグローバル一時変数保存用スペースを管理するテーブルスペースを選択します。

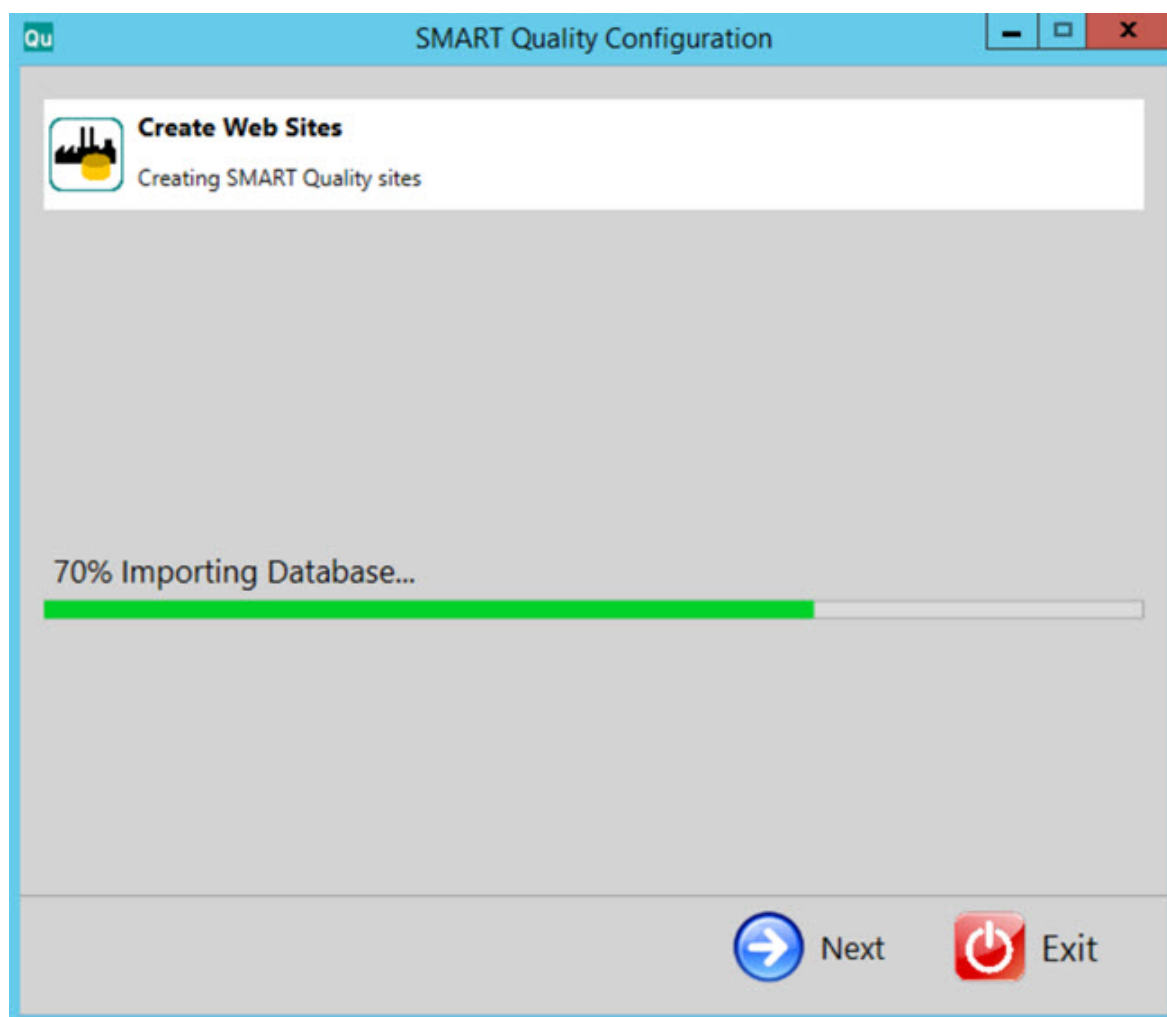
**データベースユーザー名** - データベースのユーザー名を入力します。

**データベース名** - データベースの名前を入力します。

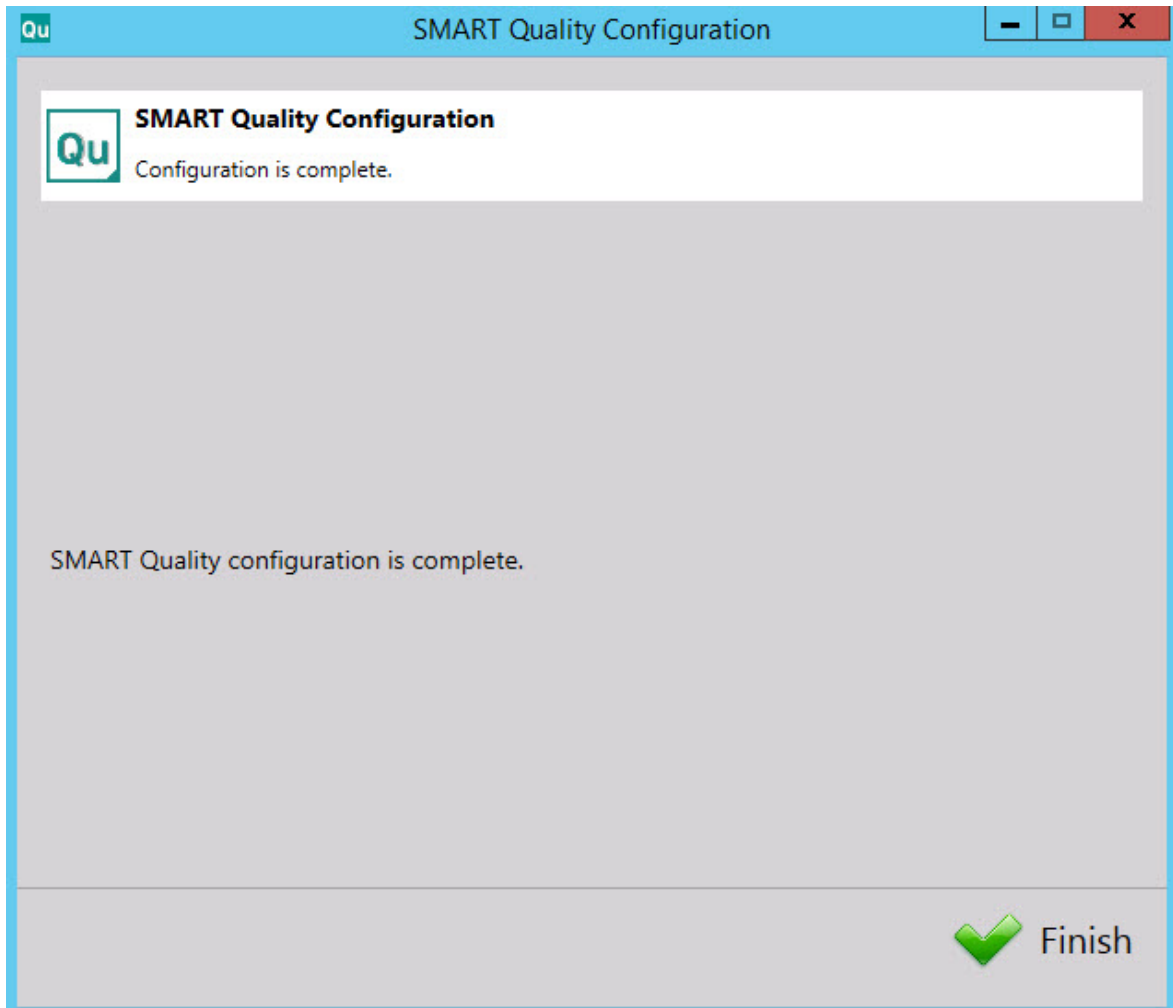
**データベースパスワード** - データベースのパスワードを入力します。

**パスワードを確認** - 確認のためにパスワードを再入力します。

4. [次へ]をクリックして、SMART Qualityサイトを作成します。



5. ウェブサイトを作成してから、[次へ]をクリックして最終画面を開きます。



6. [完了]をクリックして設定ウィザードを終了します。このステップでは、SMART Qualityサーバーのインストールを完了します。

## SMART Taskのインストール

1. メインインストール画面で**SMART Task**をダブルクリックして、インストールプロセスを開始します。
2. 次へをクリックして**端末ユーザーライセンス契約**画面を開きます。

### Step 3: サーバーのインストール

3. 使用許諾契約をご拝読して、同意します。続いて、**次へ**をクリックして**インストールのアドレスを選択画面**を開きます。

[サイト] リストから、**デフォルト Web**

サイトをデフォルトのままにします。

**仮想ディレクトリボックス**で、ユーザーの**SMART**

**Task**ファイルが含まれているディレクトリ名を指定します。デフォルトのディレクトリは**SmartTask**です。

4. **次へ**をクリックして**保存先ホルダ画面**を開きます。インストールフォルダを変更することもできます。
5. インストールに必要なすべての情報が揃ったら**SMART Task**のインストールの**準備完了画面**が表示されます。
6. **インストール**をクリックします。インストールが完了されると、下記の終了の画面が表示されます。
7. **完了]**をクリックしてウィザードを閉じます。

## 別々に

### HxGN SMART Qualityのインストールデータベース

このインストーラは、SMART Quality Webサイト ( SMART Qualityアプリケーションサーバー ) ではなく、HxGN SMART Qualityデータベースのみをインストールする場合に便利です。このインストーラは、S PFおよびDataServerの表領域、ユーザー、および表を含むデータベースを作成します

。これにより、データベースサーバにHxGN SMART Quality Databaseもインストールされます。

HxGN SMART Qualityパラメータを設定したり、Microsoft SQL Serverデータ管理ソフトウェアまたはOracleデータベースを設定したり、SMART Quality用のWebサイトを作成したりする場合は、「段階4：SMART Qualityの設定」を参照してください。

SPFおよびDataServer用のSMART Qualityデータベース ( SQL ServerまたはOracleデータベース ) のみをインストールする場合は、次の手順を実行します：

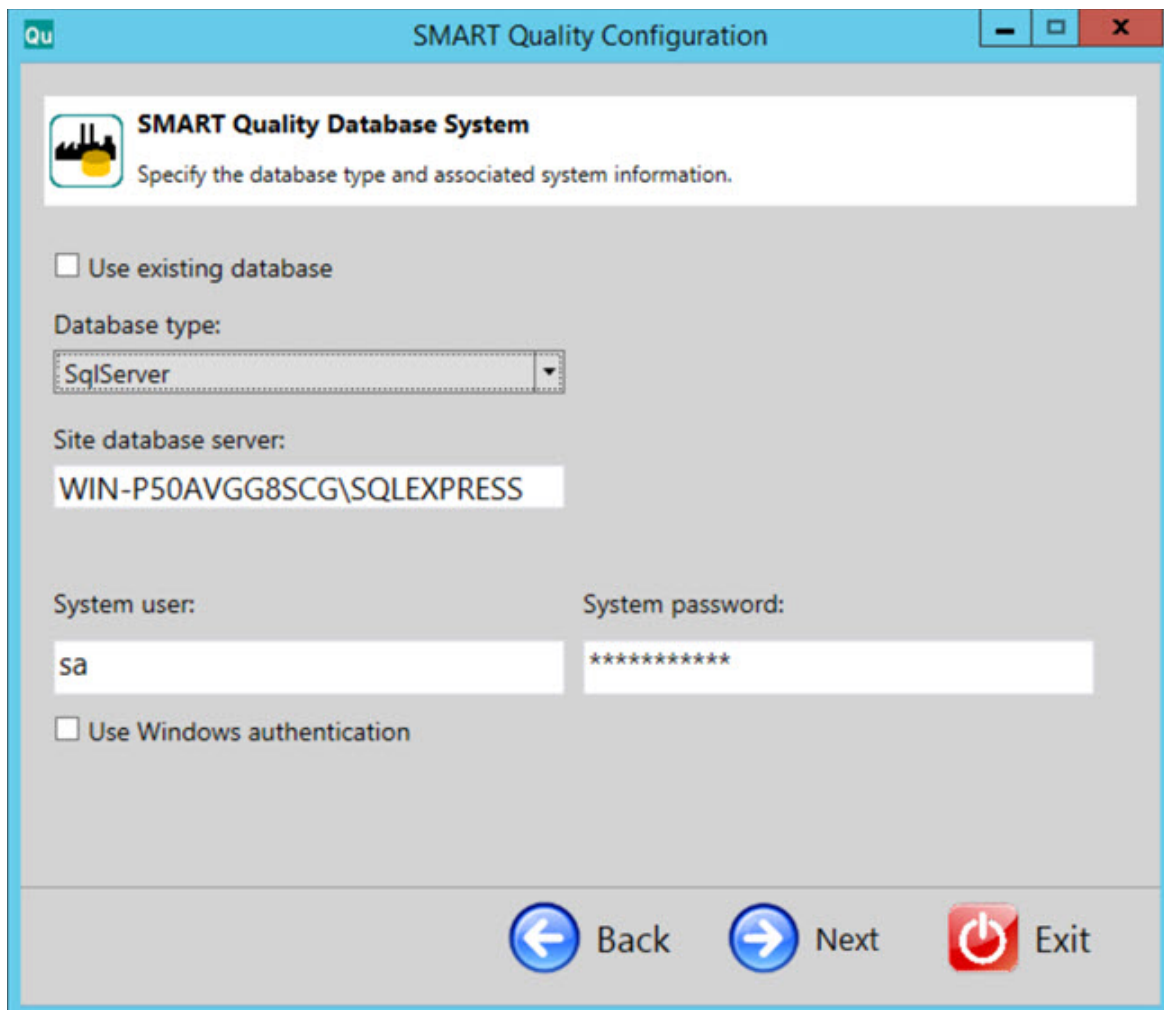
1. インストールメディア上のインストールファイルを検索するか、またはそれをダウンロードした場合は、ダウンロードされたファイルが保存されているディレクトリを開きます。インストールファイルは次のようになります：

**SetupDatabaseForSQ\_Release\_#.###.exe**

#記号は特定のバージョン番号を表します。

2. **SMART Quality**データベースシステム画面が開きます：

### Step 3: サーバーのインストール



SMART Quality Configuration

**SMART Quality Database System**  
Specify the database type and associated system information.

Use existing database

Database type:  
SqlServer

Site database server:  
WIN-P50AVGG8SCG\SQLEXPRESS

System user: sa      System password: \*\*\*\*\*

Use Windows authentication

Back    Next    Exit

既存データベースを使用 -

このチェックボックスを選択して現在のデータベースを使用します。

データベースの種類 - リストからデータベースの種類:

**Oracle**または**SqlServer**を選択します。



この手順の残りについては、青色の項目は特に**SQL Server**に関するものです。赤茶色のアイテムは**Oracle**を参照してください。黒のアイテムは両方に共通です。画面イメージは**SQL Server**からのものです。

#### サイトデータベースサーバー / **Oracle Alias** -

データベースサーバーの名前を入力します。

#### システムユーザー -

このボックスは**既存データベースを使用**または**Windows認証を使用**チェックボックスを選択する場合、使用できません。ボックスにコンピュータのユーザー名を入力することができます。

#### システムパスワード -

このボックスは**既存データベースを使用**または**Windows認証を使用**チェックボックスを選択する場合、使用できません。コンピュータのパスワードはボックスに入力できます。

#### **Windows認証を使用** -

このチェックボックスを選択して、Windowsのユーザー名およびパスワードを使用します。

3. [次へ]をクリックして、[**SMART Quality**データスキーマ]画面を開きます。

### Step 3: サーバーのインストール

The screenshot shows the 'SMART Quality Configuration' window. The title bar includes the 'Qu' logo and window control buttons. The main content area is titled 'SMART Quality Data Schema' and contains the instruction: 'Enter the location of the database dump file and the user information for the Data schema.' Below this, there are two main sections: 'Schema data source' and 'Database server'. The 'Schema data source' section has a 'Dump file location:' label and a text box containing 'C:\inetpub\wwwroot\SQ\SpfFiles\Databases\MMS\_DATA.bak' with a browse button (...). The 'Database server' section contains several fields: 'Physical database file location:' (Default SQL Location), 'Log file location:' (Default SQL Location), 'Database username:' (Mms\_Data), 'Database name:' (MMSDATA), 'Database password:' (masked with \*\*\*\*\*) and 'Confirm password:' (masked with \*\*\*\*\*). At the bottom, there are three buttons: 'Back' (left arrow), 'Next' (right arrow), and 'Exit' (power icon).

#### ダンプファイルの場所 -

Oracleデータベースのダンプファイルを保存するディレクトリを選択します。

物理データベースファイルの場所 - データベースのディレクトリを入力します。

ログファイルの場所 - ログファイルのディレクトリを入力します。

#### Oracleテーブルスペース -

リストからユーザーのデータベースのデータを保存するテーブルスペースを選択します。

**Oracle一時のテーブルスペース -**

リストからデータベースソート操作およびグローバル一時変数保存用スペースを管理するテーブルスペースを選択します。

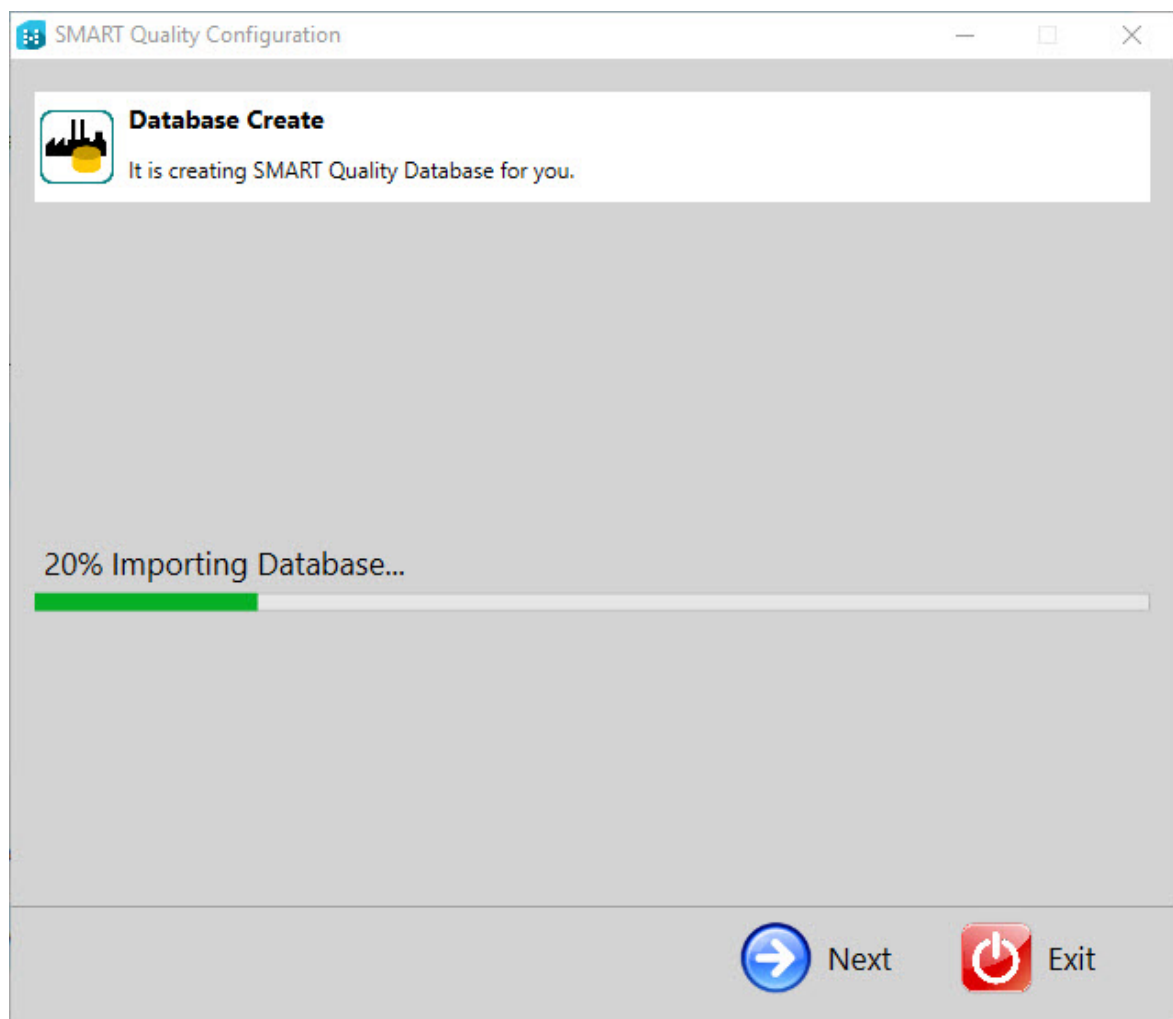
**データベースユーザー名** - データベースのユーザー名を入力します。

**データベース名** - データベースの名前を入力します。

**データベースパスワード** - データベースのパスワードを入力します。

**パスワードを確認** - 確認のためにパスワードを再入力します。

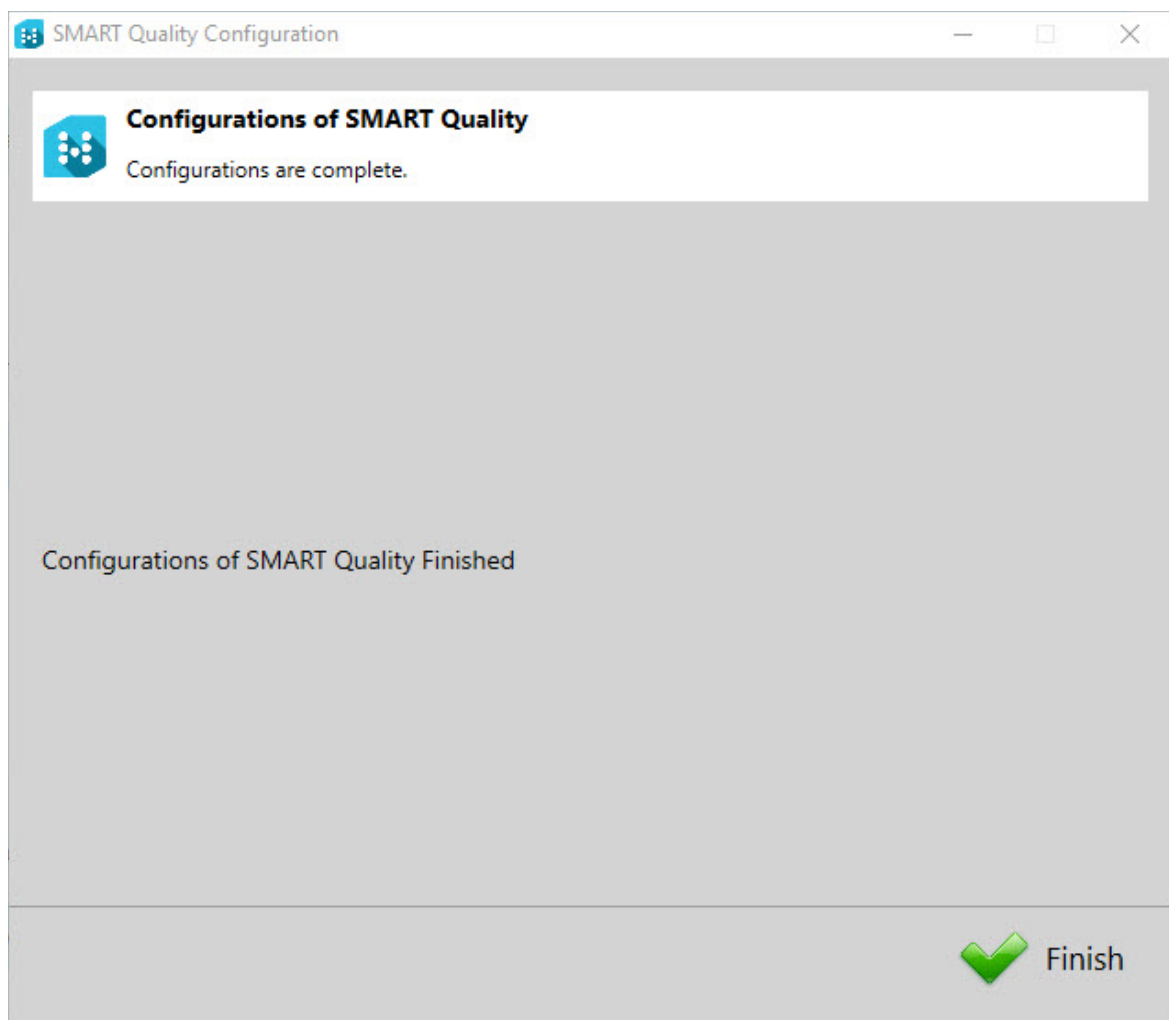
4. 「次へ」をクリックしてデータベースを作成します。





### Step 3: サーバーのインストール

5. データベースが作成されたら、[次へ]をクリックして最終画面を開きます。

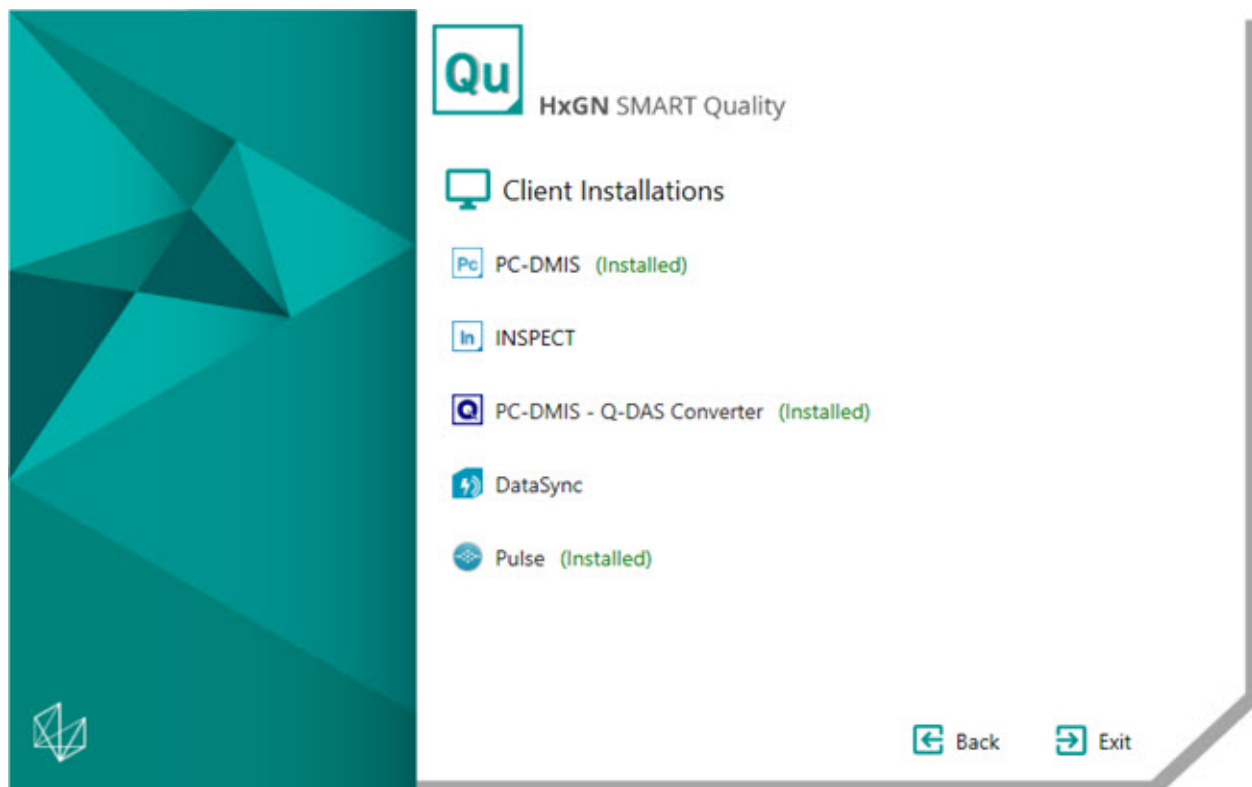


6. [完了]をクリックして設定ウィザードを終了します。この手順は、SMART Qualityデータベースのインストールを完了します。

## Step 4: クライアントのインストール



クライアントのインストールに進む前に、サーバーのインストールを完了してください。



**PC-DMIS** - このオプションはアプリケーションのPC-DMIS 2018.0

R2バージョンをインストールします。

**Inspect** - このオプションはInspect

4.0アプリケーションをインストールします。Inspectは、バージョン4.3以降の任意のバージョンのPC-DMISで機能できます。

Step 4: クライアントのインストール

**PC-DMIS - Q-DAS Converter** - このオプションは、PC-DMISをQ-DAS Converterにインストールします。

**DataSync** - このオプションは、DataSyncサービスをインストールします。

**PULSE** - このオプションはPulse Desktopアプリケーションをインストールします。

## PC-DMIS 2018.0 R2のインストール

このインストールに関する詳しい指示については「PC-DMIS\_Readme.pdf」を参照してください。このpdfを開くには、「Readme」トピックを参照してください。

## Inspect 4.0のインストール

1. メインインストール画面で**Inspect**をダブルクリックして、インストールのプロセスを開始します。ファイルが一時ディレクトリに展開され、メイン設定画面が表示されます：
2. メイン画面で、使用許諾契約書をご拝読して、同意します。インストールフォルダを変更することもできます。
3. 「インストール」をクリックして、定義済みのインストール・ディレクトリーへのインストールを開始します。
4. HxGN SMART Qualityが必要なファイル及びショートカットをインストールすると、インストール完了画面が表示されます。この画面では、次のアイテムを選択できます：

- **Inspectの起動 -**

アプリケーションを起動するには、**閉じる**をクリックすると、このチェックボックスをオンにします。

- **リリースノートを表示 -**

このリリースでの新規情報または変更点を説明する.pdfを表示するには、**閉じる**をクリックすると、このチェックボックスをクリックします。

5. **閉じる**をクリックしてインストールプログラムを閉じます。

## PC-DMIS-Q-DAS Converterのインストール

このツールは測定ルーチンを測定し、その結果をQ-DAS (.dfq) 形式に変換します。

1. メインインストール画面で**PC-DMIS - QDAS**

**Converter**をダブルクリックして、インストールのプロセスを開始します。

2. リストから言語を選択し、**[OK]**をクリックします。**PC-DMIS-Q-DAS**

**Converter**のセットアップウィザードが開きます。

3. **次へ**をクリックして**ライセンス契約**画面を開きます。

4. 使用許諾契約をご拝読して、同意します。次に、「**次へ**」をクリックして「**部品の選択**」画面を開きます。

5. 必要のないコンポーネントのチェックボックスをオフにします。次に、「**次へ**」をクリックして「**インストール場所の選択**」画面を開きます。インストールフォルダを変更することもできます。

6. **インストール**をクリックします。インストールが完了すると、下記の終了画面が表示されます：

## Step 4: クライアントのインストール

7. **完了]**をクリックしてウィザードを閉じます。

## DataSyncのインストール

DataSyncサービスは、測定データをローカル360 SIMS

DataServer(1.x)システムから中央のHxGN SMART Quality

DataServerに移行します。このサービスは、今日のビデオ ( VOD ) 機能のCoreview

要素/寸法データ及びCTO/CTN表面解析データを移行します。このデータをSMART

QualityおよびQ-

DASソフトウェアパッケージで表示すると、詳細な統計分析が可能になります。

### DataSync Windowsサービスの前提条件について

以下は、Data Sync

Windowsサービスをインストールして実装するための前提条件です：

- すべてのデータベースおよびサービスインスタンスのDataServerバージョンは1.5.0以上であること。
- **Local**  
DataServerデータベースは、少なくとも1つのローカルのセルにインストールする必要があります。
- ローカルデータベースを指す接続文字列を持つローカルDataServerサービスのインスタンス。
- ServiceOptions.configファイルで、LocalDataServerサービスのCentralDataServerオプションが

"0" (ゼロ) に設定されている必要があります。詳細については、「DataServerのユーザーガイド」を参照してください。

- **Central**  
DataServerデータベースのインスタンスは別のコンピュータにインストールする必要があります。
- 中央データベースを指す接続文字列を持つ中央DataServerサービスのインスタンス。
- ServiceOptions.configファイルで、CentralDataServerサービスのCentralDataServerオプションが  
「1」に設定されている必要があります。詳細については、「DataServerのユーザーガイド」を参照してください。

## インストールのプロセス

1. メインインストール画面で**DataSync**をダブルクリックして、インストールプロセスを開始します。
2. 使用許諾契約をご拝読して、同意します。インストールフォルダを変更することもできます。次に、[次へ]をクリックしてDataSyncサービスの設定画面を開きます。

### **Local DataServer Address -**

ローカルDataServerのアドレスを入力します。

### **Central DataServer Address -** 中央DataServerのアドレスを入力します。

3. **接続のテスト**をクリックします。有効な接続メッセージが表示されます。

## Step 4: クライアントのインストール

4. **[OK]**をクリックし、次に**[インストール]**をクリックしてインストール画面を開きます。
5. インストールが完了し、最後の画面が表示されたら、**[閉じる]**をクリックしてこのウィザードを閉じます。

## PULSEのインストール

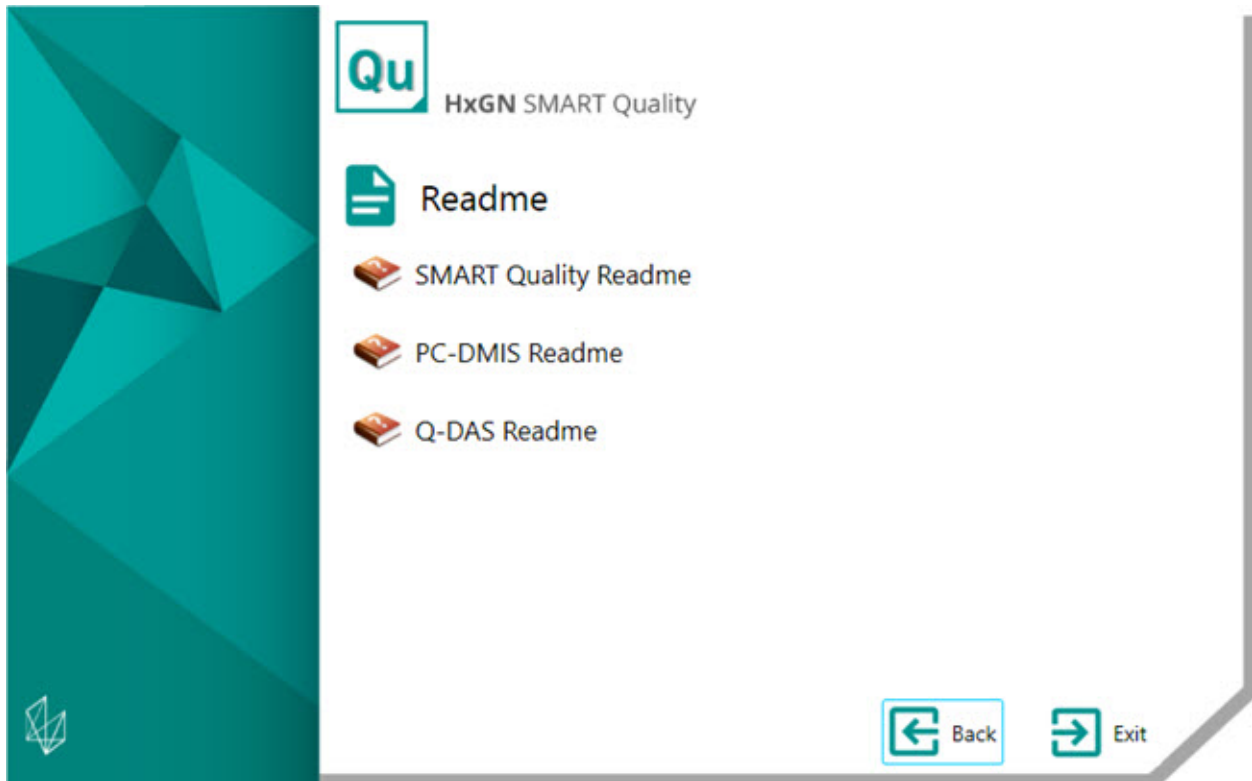
1. メインインストール画面で**PULSE**をダブルクリックして、インストールのプロセスを開始します。メインセットアップ画面が表示されます:
2. メイン画面で、使用許諾契約書をご拝読して、同意します。**[オプション]**をクリックして、インストールのフォルダを変更します。
3. 「**インストール**」をクリックして、定義済みのインストール・ディレクトリーへのインストールを開始します。
4. **HxGN SMART**  
**Quality**が必要なファイル及びショートカットをインストールすると、**インストール完了**画面が表示されます。この画面では、次のアイテムを選択できます:

**起動** - アプリケーションを起動するには、このボタンをクリックします。

**閉じる** -

インストールプログラムを終了するには、このボタンをクリックします。

## Readme(リードミー)



**SMART Quality Readme** - このオプションは、HxGN SMART Quality Readmeを開きます。

**PC-DMIS Readme** - このオプションはPC-DMIS Readmeを開きます。

**Q-DAS Readme** - このオプションはQ-DAS Readmeを開きます。



# トラブルシューティング

---

## 概要

### HxGN SMART

Qualityまたは必要なソフトウェアコンポーネントのいずれかを入手して適切にインストールまたは動作させる際の問題、インターネットオプション設定に関する問題、またはその他の構成上の問題が存在する場合。

以下のトピックは、SMART Quality

サーバーに接続する際によく発生するエラーの修正方法と、その他の役立つ手続きについて説明します。

---

## HTTP エラー 500.19 または HTTP エラー 500.21

**問題:** サーバーに接続しようとするとき「HTTP エラー 500.19」または「HTTP エラー 500.21」が発生します。

**解決策:** 下記の手順に従います:

1. コマンドプロンプトウィンドウを開きます。これを行うには**スタート**を選択しプログラムとファイルの**検索**ボックスに**Cmd**を入力し**Enter**を押します。

2. コマンドプロンプトで、"**%WINDIR%\Microsoft.NET\Framework\v4.0.30319\aspnet\_regiis.exe**" -iruと入力し、Enterを押します。これによって、Microsoft .NET Framework 4がIISに適用されます。

```
Administrator: C:\Windows\system32\cmd.exe
Microsoft Windows [Version 6.1.7601]
Copyright (c) 2009 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\jashah>%WINDIR%\Microsoft.NET\Framework\v4.0.30319\aspnet_regiis.exe" -iru -enable
```

3. ブラウザを再起動します。
4. [SMART Quality server host]/[SMART Quality サイト名]  
/ページにもう一度アクセスします。ここで、[SMART Quality  
サーバホスト]はサーバーのインターネットプロトコル ( IP ) アドレスで、SMA  
RT Quality サイト名はサイトの名前です。

---

## SMART Qualityが正しく開かない

**問題：**これはさまざまな形で現れます。これらには、次のことを含んでいます：

- HxGN SMART Qualityを開くとエラーが表示されます。
- データのない白い画面が表示されます。
- サインイン画面が中央に表示されず、エラーメッセージが表示されます。

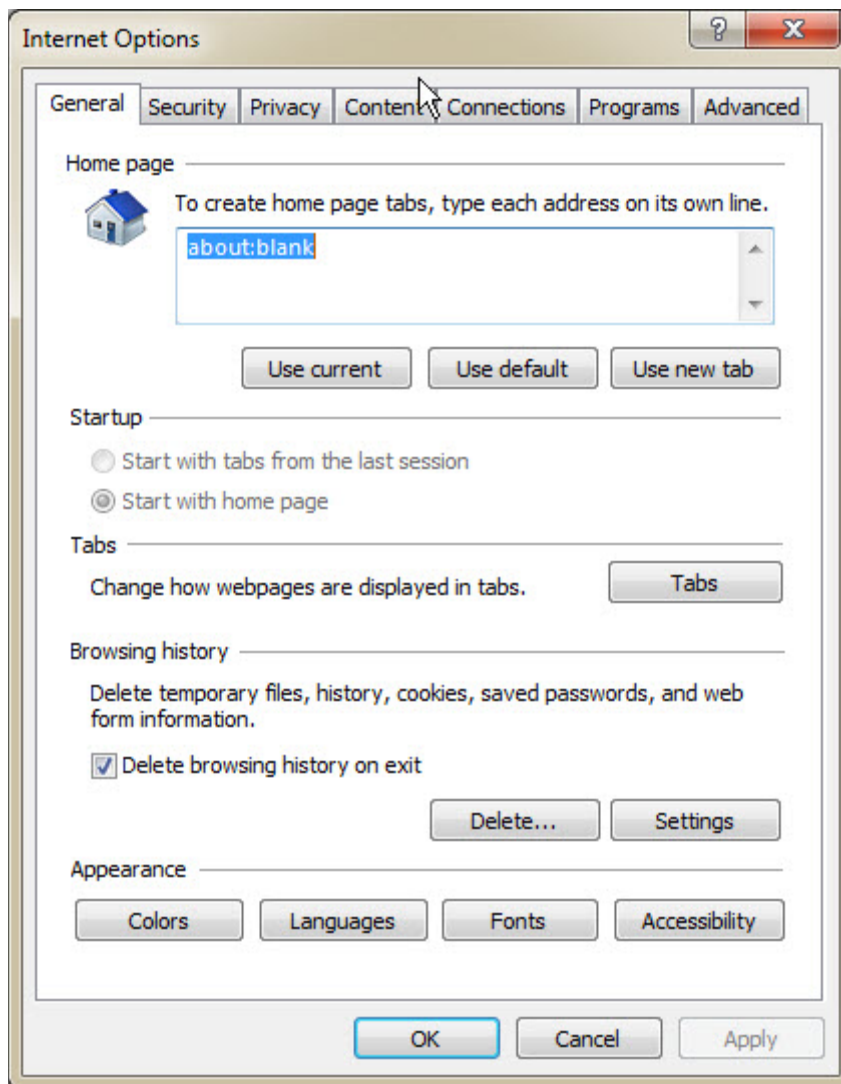
**解決策：**ブラウザから上記の症状のいずれかが表示された場合は、一時的なインターネットファイルを削除してください。

SMART Qualityが正しく開かない

以下の手順はInternet Explorer用です。Internet

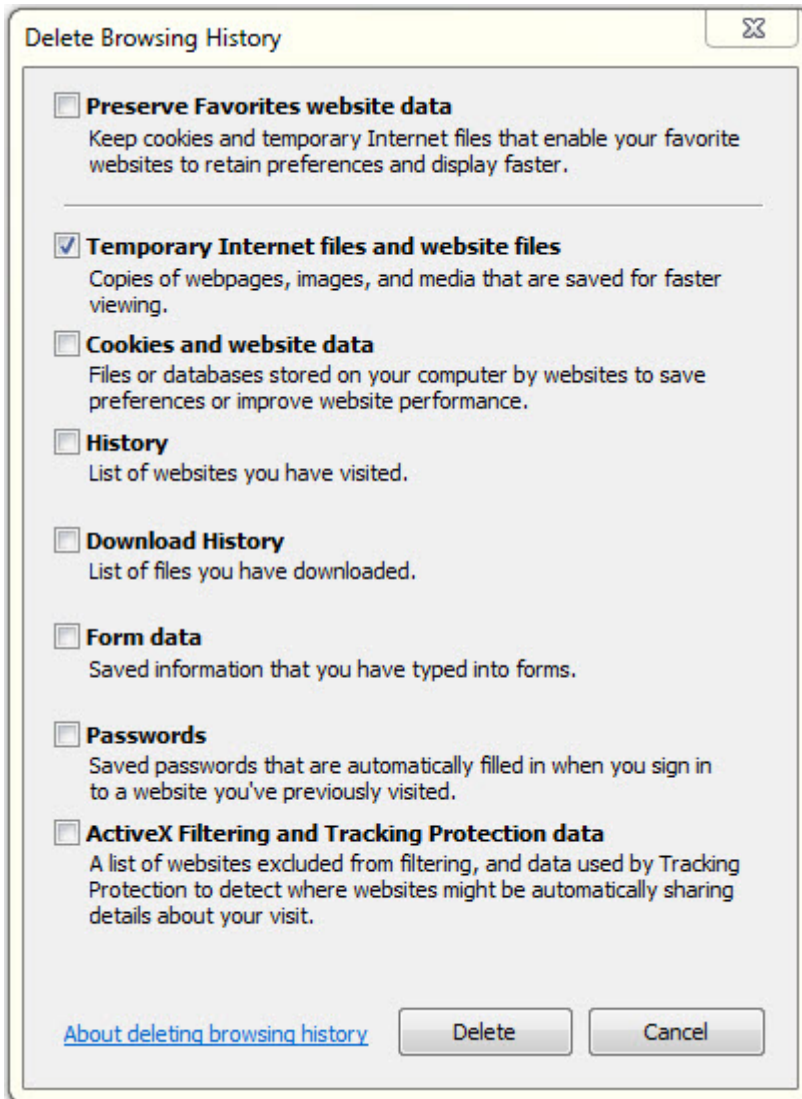
Explorerを使用していない場合は、ブラウザで同じ手順を実行する方法についてインターネットで検索してください。

1. [ツール]メニューの[インターネットオプション]をクリックして、[インターネットオプション]ダイアログボックスを開きます。



[インターネットオプション]ダイアログボックス

2. **閲覧履歴**エリアから**削除**をクリックして、**閲覧履歴の削除**ダイアログボックスを開きます。



[閲覧履歴の削除]ダイアログボックス

3. 一時のインターネットファイル及びウェブサイトファイルを選択し、**削除**をクリックして一時ファイルを消去します。
4. もう一度SMART Qualityにアクセスしてください。

ポップアップが許可されていないため、ヘルプにアクセスできません。

---

## ポップアップが許可されていないため、ヘルプにアクセスできません。

**問題:** F1を押してオンラインヘルプを開くとエラーが表示される。

**解決策:**

F1を押してもオンラインヘルプが表示されない場合、オンラインヘルプからのポップアップを可能にするようにインターネットエクスプローラの設定を変更する必要があります。

F1を押すとポップアップメッセージが表示されます。**オプションメニュー**で、**常にこのサイトからのポップアップを許可する**を選択します。

インターネットエクスプローラブラウザのツールバーからそれを変更することもできます。ツールメニューで**ポップアップブロッカー**をポイントして、**常にこのサイトからのポップアップを許可する**をクリックします。

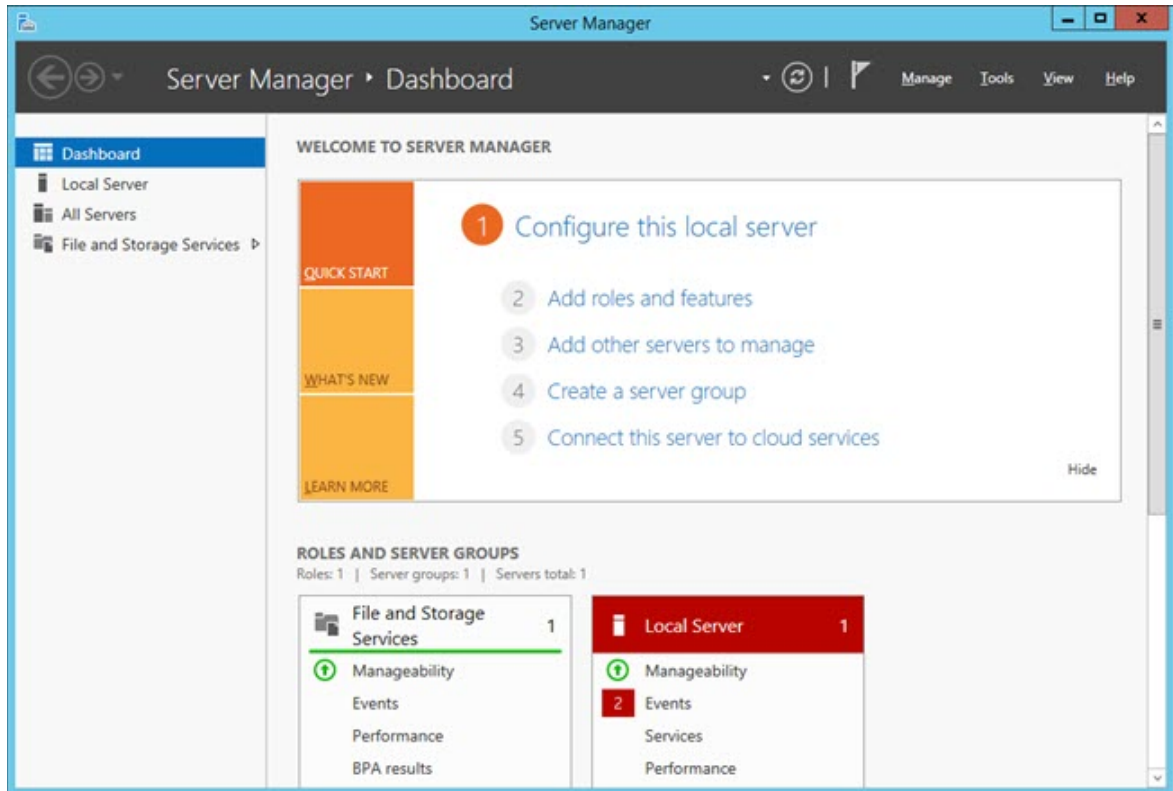
---

## Internet Information Servicesの有効化

**問題:** インターネット情報サービス ( IIS ) Webサーバーが、ステップ3: サーバーのインストールの段階1: 追加ソフトウェアのインストールに適切にインストールされていません。

**対処:** IISを手動でインストールするには、次のステップを実行します:

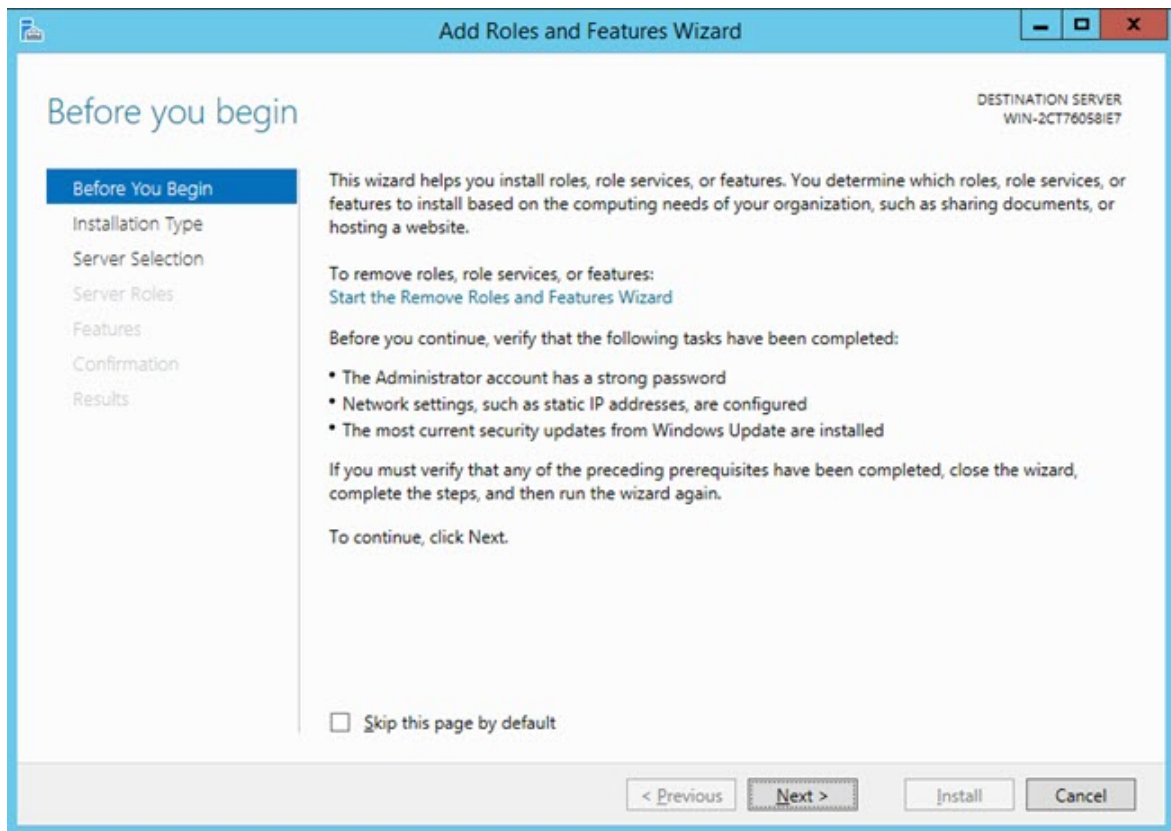
1. [サーバーマネージャー]ダイアログボックスを開くには、[開始]をクリックし、次に[サーバーマネージャー]をクリックします。



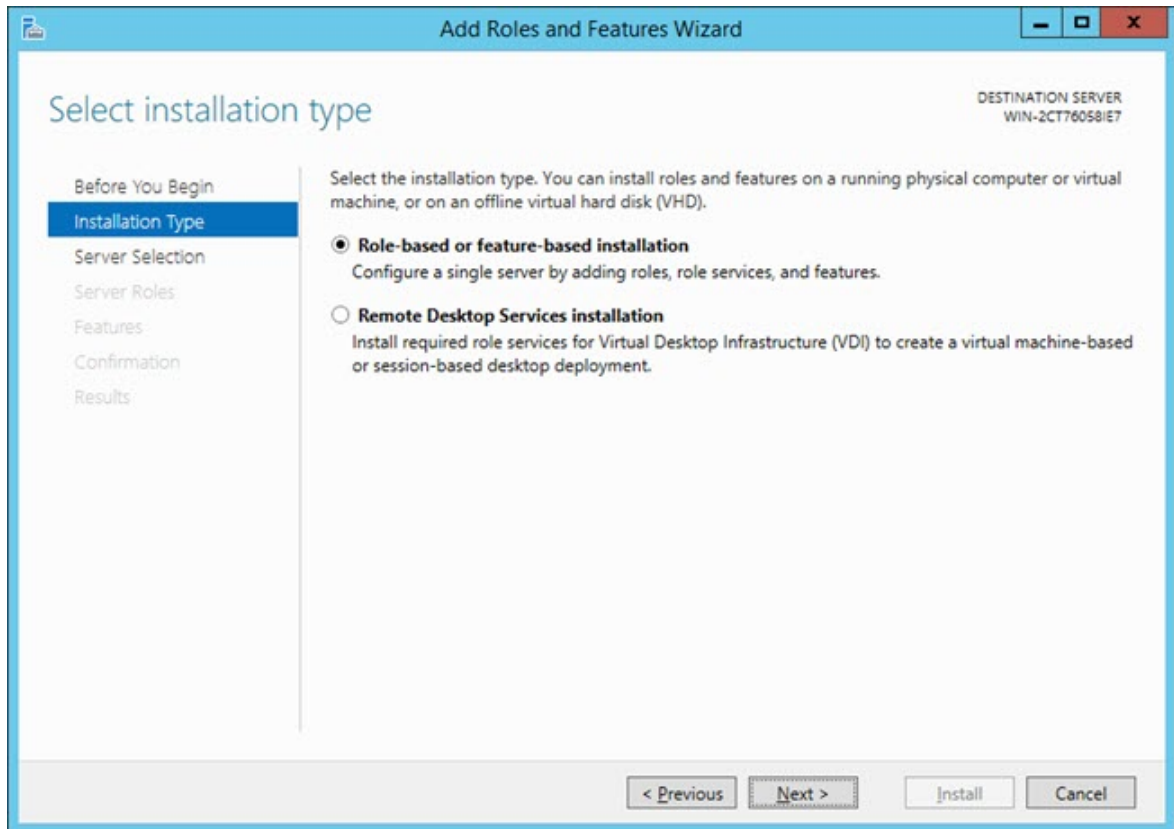
*[Server Manager]* ダイアログボックス

2. 右側のウィンドウで、**[役割と機能の追加]**をクリックして、**役割と機能の追加ウィザード**の**[開始する前に]**画面を開きます。

## Internet Information Servicesの有効化



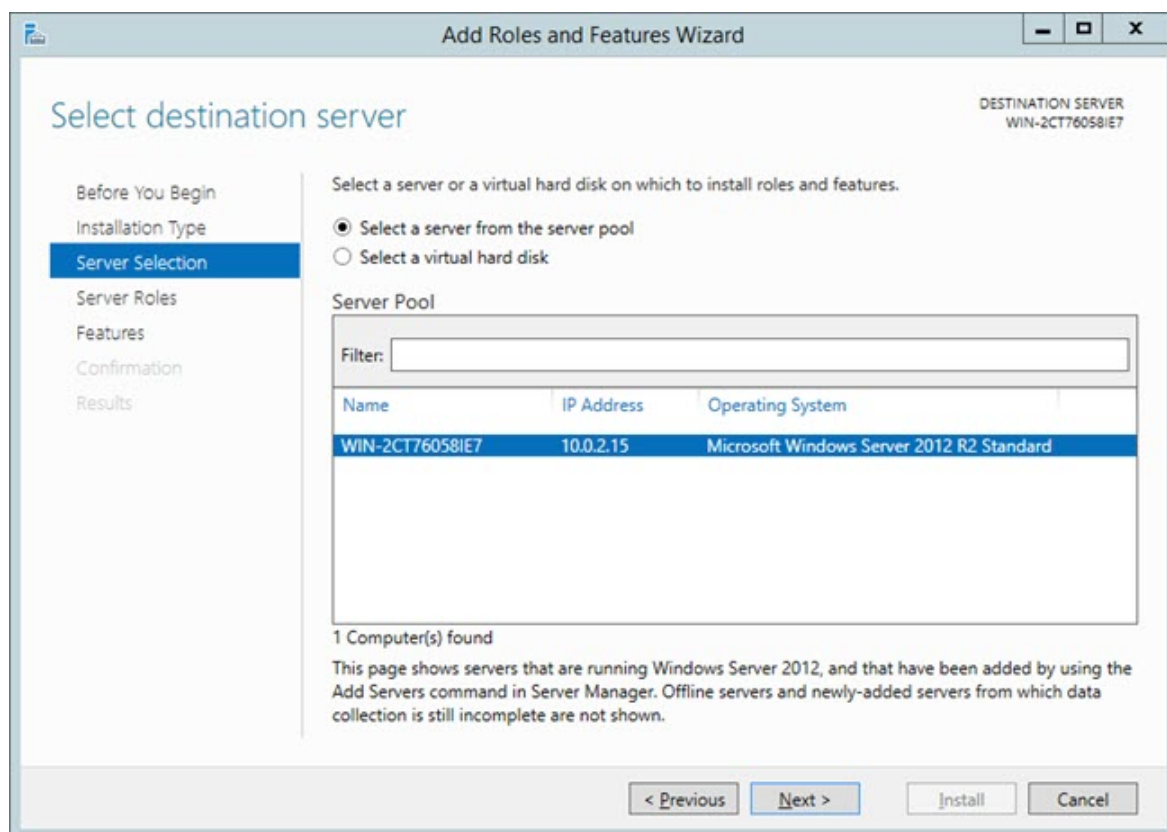
3. 「次へ」をクリックして「インストール・タイプの選択」画面を開きます。



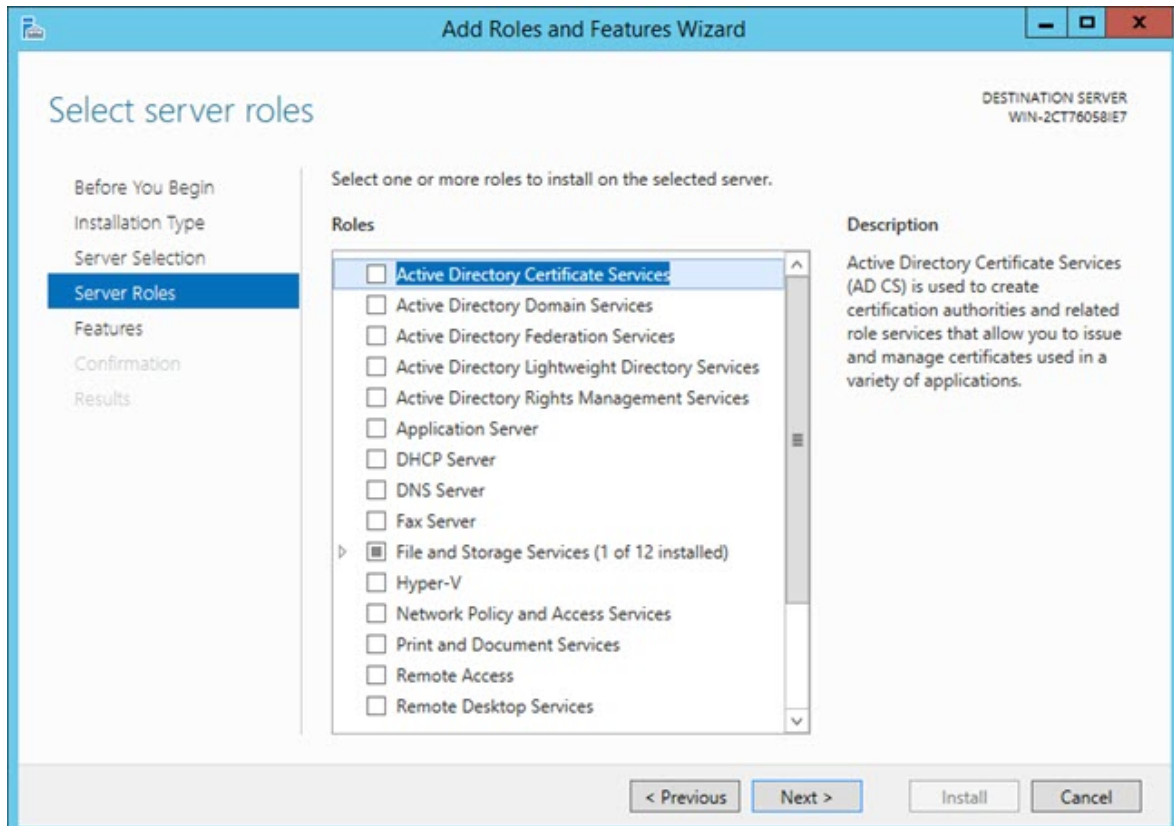
4. 役割ベースまたは機能ベースのインストールオプションが選択されていることを確認します。次に、「次へ」をクリックして、「宛先サーバーの選択」画面を開きます。



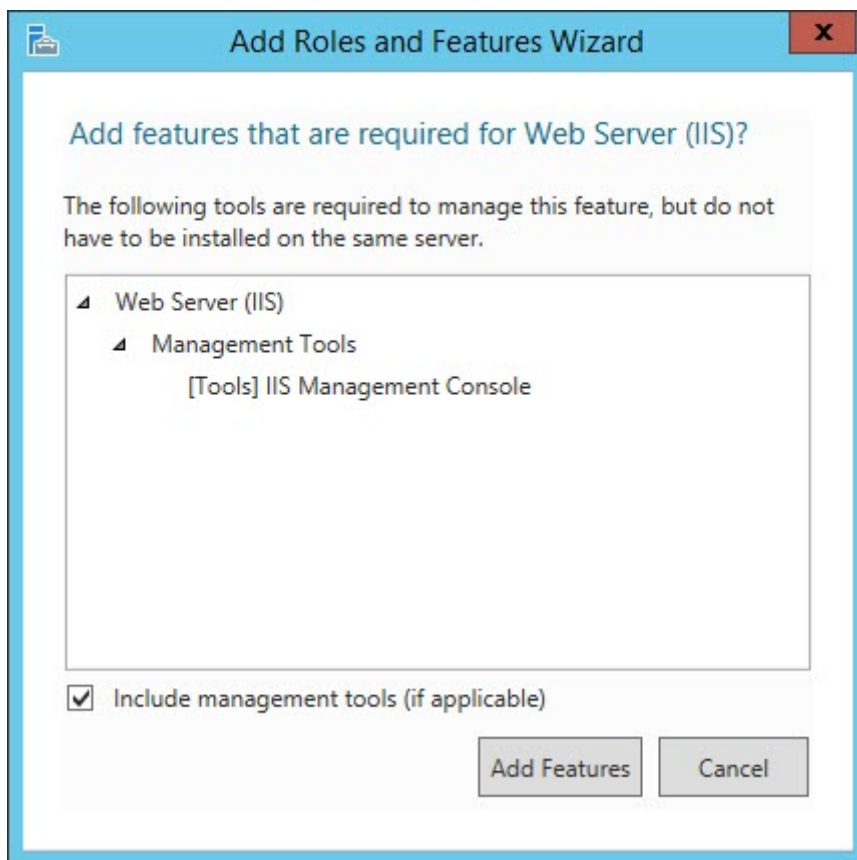
## Internet Information Servicesの有効化



5. [サーバープールからサーバーを選択する]オプションが選択されていることを確認します。次へをクリックして、サーバー役割を選択画面を開きます。

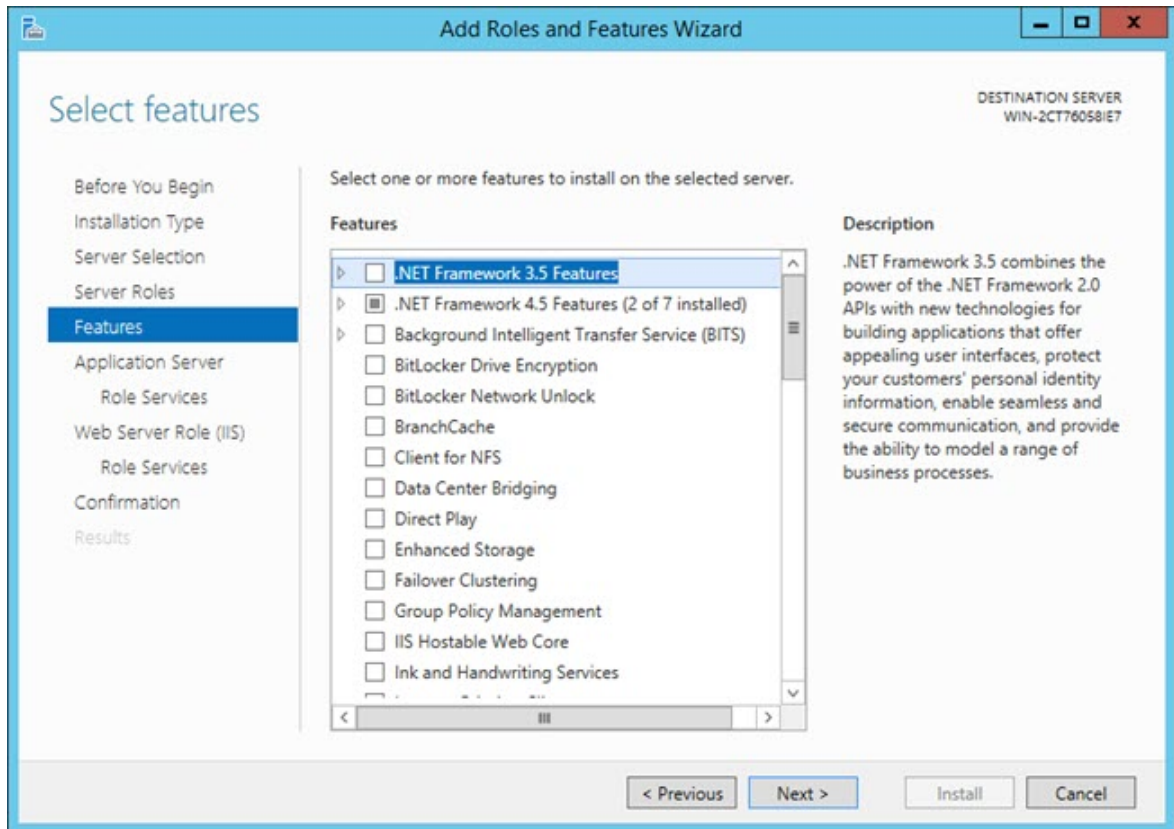


6. [役割]リストから、[アプリケーションサーバー]チェックボックスをオンにします。
7. 次に、[Web Server ( IIS ) ]チェックボックスをオンにして、[Web Server ( IIS ) ]ダイアログボックスに必要な機能を追加します。



この手順で選択する他のチェックボックスも、<item>に必要な機能の追加ダイアログボックスを開きます。(この<item>は、チェックボックス名のプレースホルダーです)これが発生すると、[機能の追加]をクリックして続行します。

8. [機能の追加]をクリックして、ウェブサーバーのデフォルト機能を追加します。  
これにより、ウェブサーバー ( IIS ) に必要な機能の追加ダイアログボックスが終了します。
9. 上記のサーバーの役割の選択画面で、[次へ]をクリックして[機能の選択]画面を開きます。



## 10. [.NET Framework

**3.5の機能]**を展開し、次のチェックボックスをオンにします：

- **.NET Framework 3.5 機能**
- **.NET Framework 3.5 (.NET 2.0 及び3.0を含む)**
- **HTTP アクティベーション**

## 11. [.NET Framework

**4.5の機能]**を展開し、次のチェックボックスをオンにします：

- **.NET Framework 4.5**
- **ASP .NET 4.5**

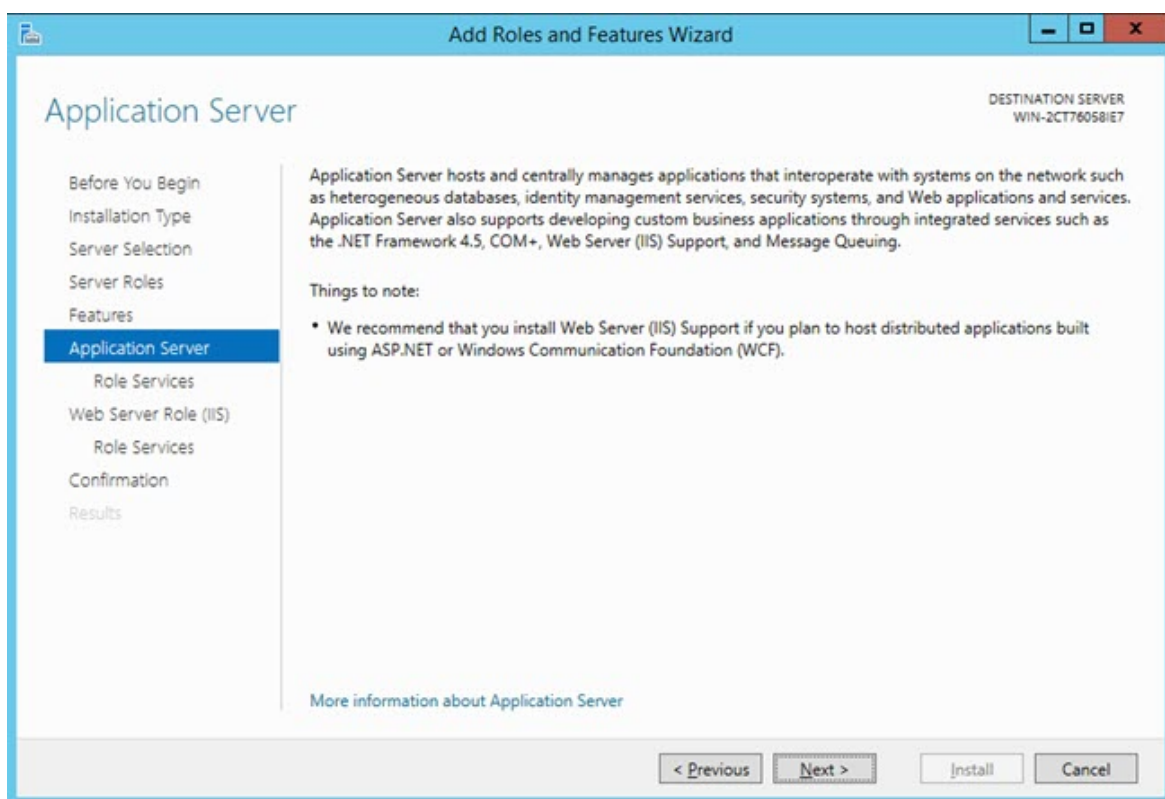
## 12. .NET Framework

**4.5の機能**の中で、**[WCFサービス]**を展開し、次のチェックボックスをオンにします：

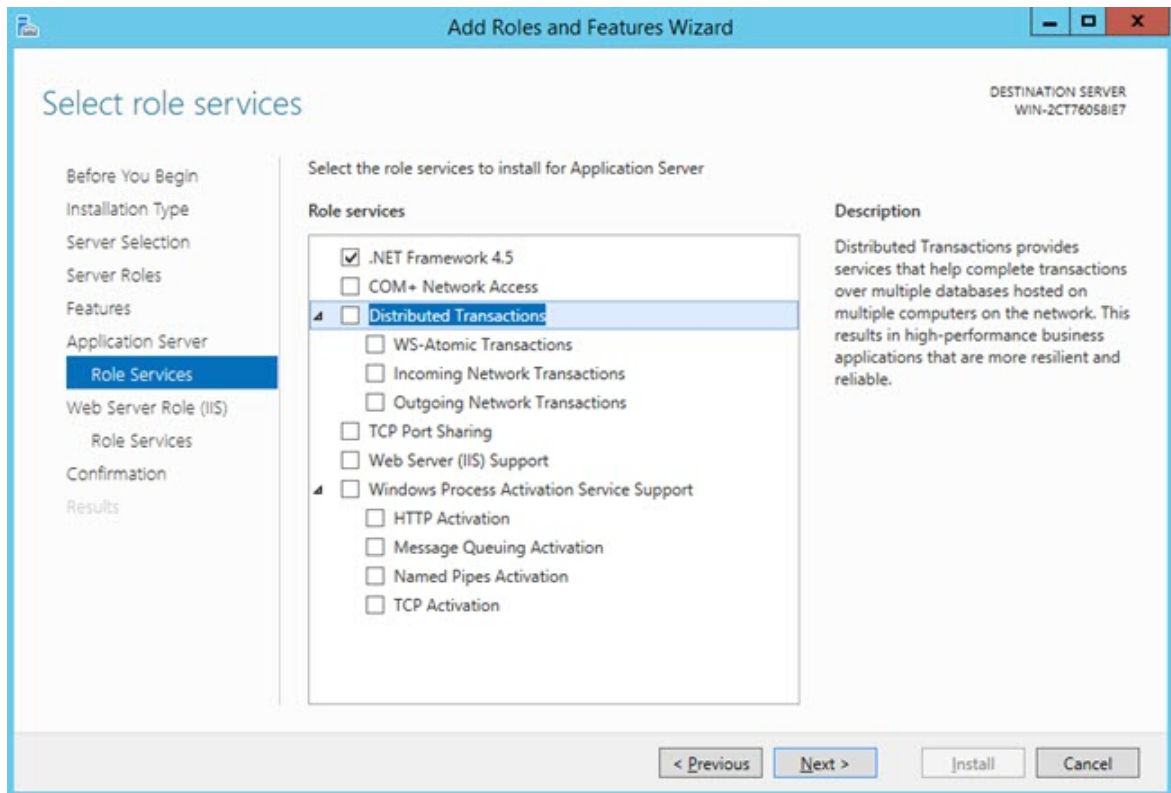
## Internet Information Servicesの有効化

- **HTTP** アクティベーション
- **Message Queuing (MSMQ)**のアクティベーション
- 名前付きパイプのアクティベーション
- **TCP** アクティベーション
- **TCP** ポートの共有

13. 上記の機能の選択画面で、[次へ]をクリックして[アプリケーションサーバー]画面を開きます。



14. [次へ]をクリックして、[役割サービスの選択]ダイアログボックスを開きます。

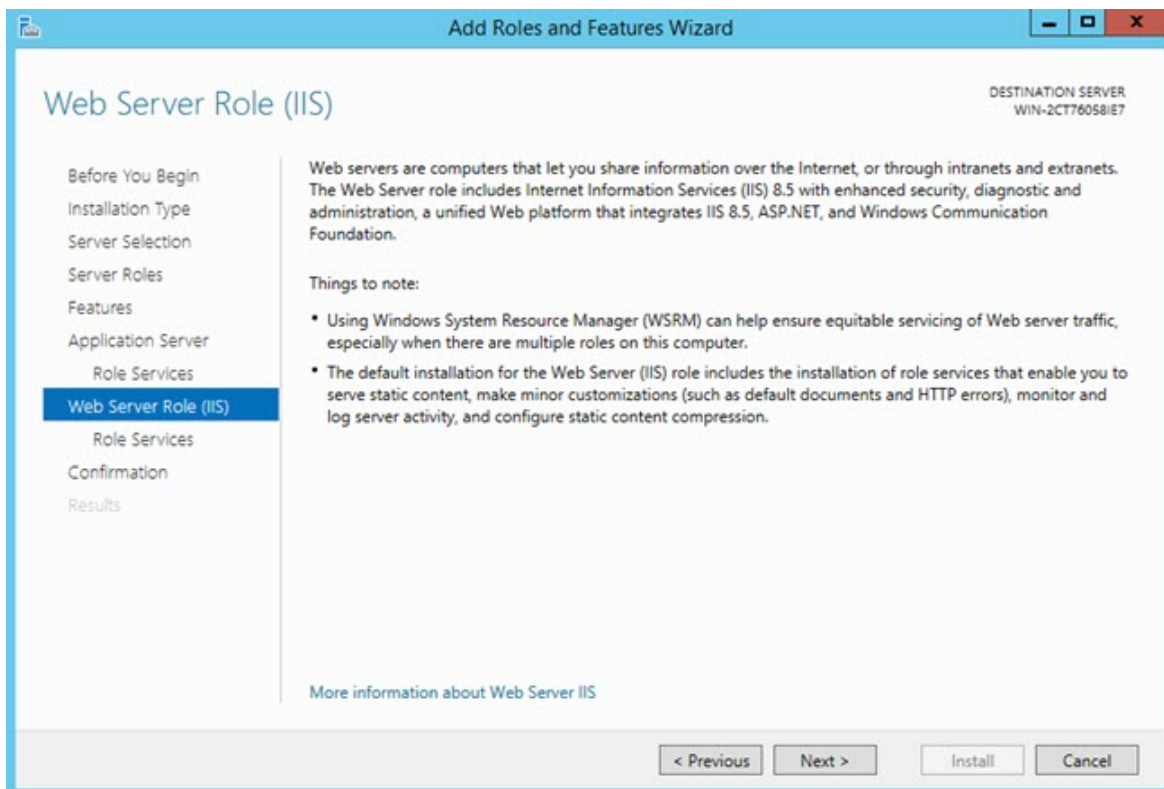


15. [役割サービス]リストから、次のチェックボックスをオンにします：

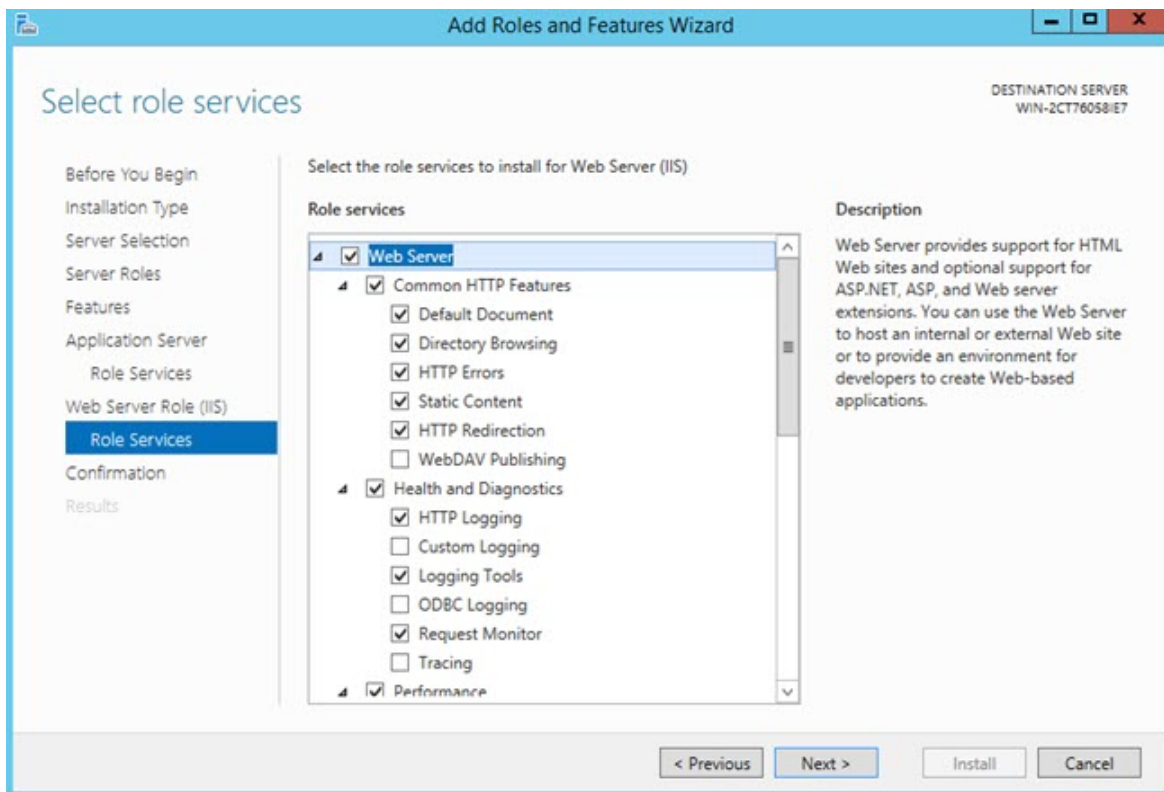
- **.NET Framework 4.5**
- **TCP** ポートの共有
- **Web Server (IIS)** 支援
- **Windows** プロセスアクティベーションサービスのサポート
- **HTTP** アクティベーション
- **Message Queuing (MSMQ)**のアクティベーション
- 名前付きパイプのアクティベーション
- **TCP** アクティベーション

16. 次へをクリックして**Web Server Role (IIS)**画面を開きます。

## Internet Information Servicesの有効化

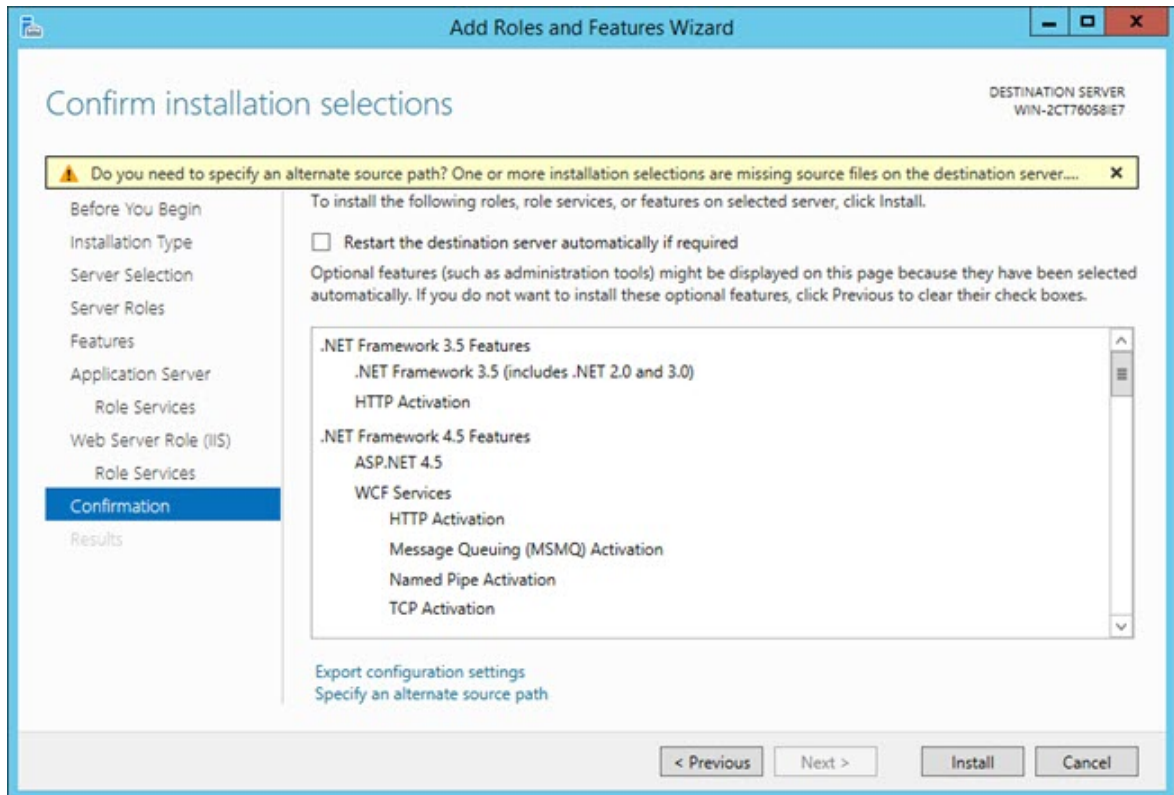


17. 次へをクリックして役割サービスを選択画面を開きます。



18. 役割サービス一覧から、多くのチェックボックスがデフォルトで選択されます。

「次へ」をクリックしてこれらのデフォルト値を受け入れ、インストールの選択の確認画面を開きます。



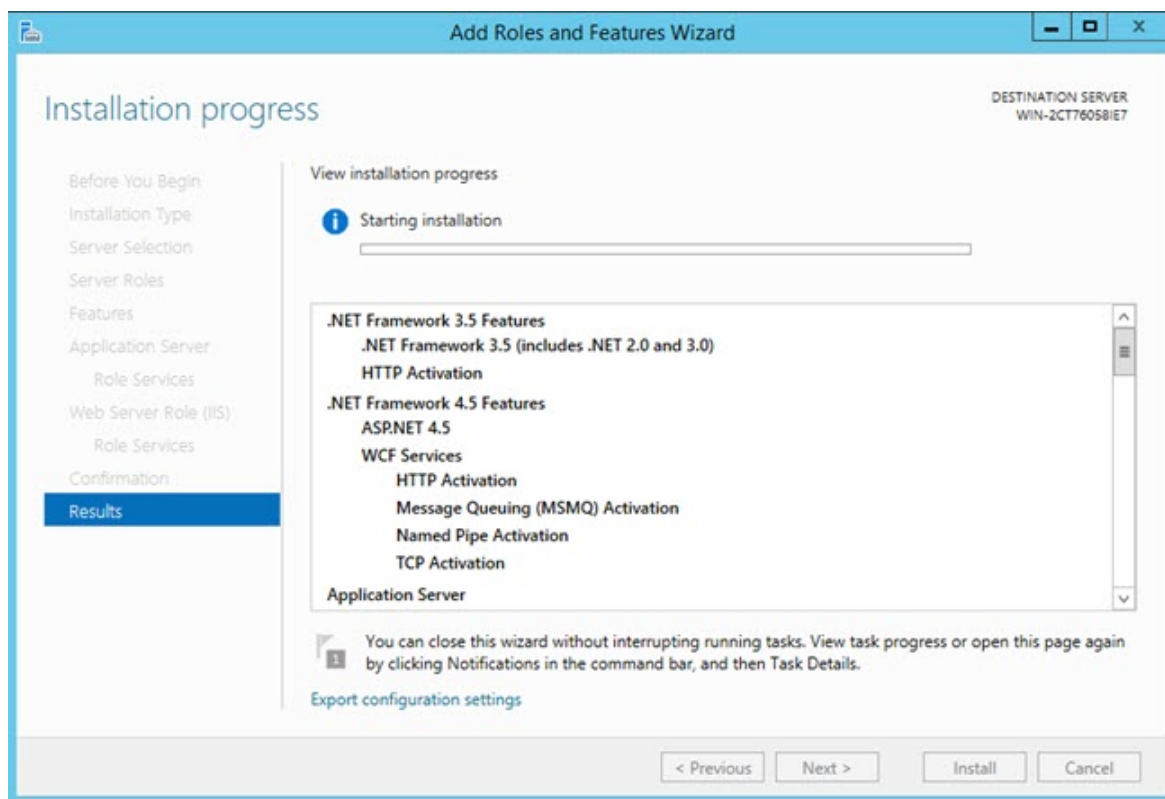
19. [必要に応じて自動的に移行先サーバーを再起動する]チェックボックスをオンにします。

20. 表示されるメッセージで、[はい]をクリックして、移行先サーバーが自動的に再起動することを確認します。

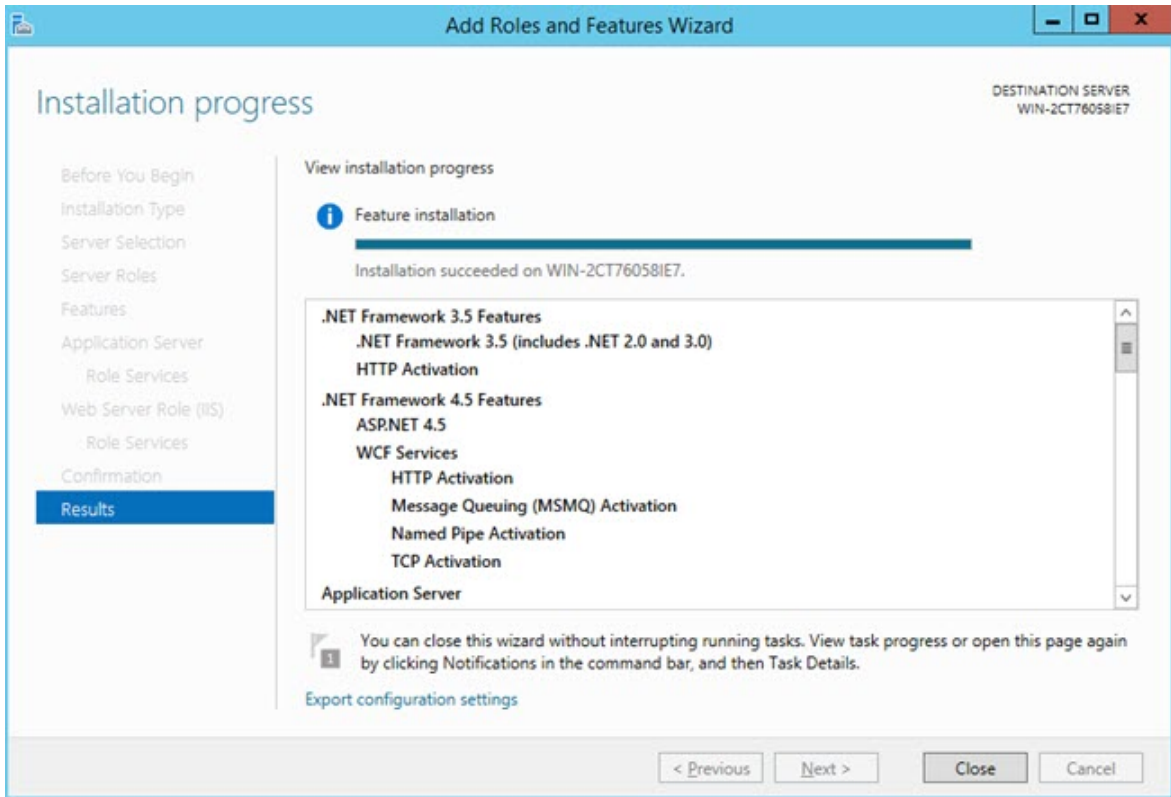
21. [インストール] をクリックして、インストールを開始します。



## Internet Information Servicesの有効化



22. インストールが完了し、インストールの進行状況バーの下にインストール成功メッセージが表示されたら、**[閉じる]**をクリックします。



# 付録



これらの設定は、詳細なトラブルシューティングか、または限られた時間だけに変更する必要があります。Hexagon社のテクニカルサポートから指示が必要な場合があります。

---

## SMART Quality 設定の定義

このダイアログボックスは、サーバー設定を構成して、ユーザーがHxGN SMART Qualityサーバーに接続できるようにします。

### SMART Quality

設定のダイアログボックスを開くには、**スタート**をクリックし、**すべてのプログラム**にポイントして、**SMART Quality**をクリックし、次に[**SMART Quality 設定**]をクリックします。



### SMART Quality

設定ダイアログボックスでいずれかの変更を行う場合は、SMART Qualityアプリケーションが再起動します。

## SMART Quality 設定の定義

SMART Quality Settings

Server Settings

Server: WIN2012VBServer

Site name: MMSServer

File server: WIN2012VBServer

File site name: MMSFileServer

Vault: C:\Vaults

Q-DAS web server: 180.168.202.164

Q-DAS web site name: QDasWeb

DataServer: WIN2012VBServer

Upload Folder

C:\inetpub\wwwroot\sq3\Uploads 2MB

English

### SMART Quality 設定

#### サーバーの設定 -

サーバへのアクセスを定義するには、次のオプションを設定できます。

##### サーバ -

これは、サーバーの名前またはインターネットプロトコル (IP) アドレスを定義します。

**サイト名** - これはウェブサイトのドメイン名を定義します。

**ファイルサーバ** - これはファイルのサーバー名またはIPアドレスを定義します。

**ファイルサイト名** - ファイルのウェブサイトのドメイン名を定義します。

ポルト - これは、ポルトフォルダを設定します。

**Q-DAS Webサーバー** - これはQ-

DASサーバーの名前またはIPアドレスを定義します。

**Q-DASウェブサイト名** - これは、Q-

DASウェブサイトのドメイン名を定義します。

**データサーバ** - これはデータのサーバー名またはIPアドレスを定義します。

**アップロードフォルダ** -

このフォルダには、一時ファイルとしてサーバーにアップロードされたファイルを格納します。クリアボタンをクリックして、フォルダからすべてのファイルを削除することができます。

---

## 高度なデータサーバー構成

### データベースの設定

このファイルには、データベースをサービスにリンクするための接続文字列が含まれています。サービスがインストールされている環境用に変更する必要があります。このフォルダにDataServerHostService.exe.configファイルがあります：

```
C:\Program Files\Hexagon\DataServer <version> 64-bit\
```

ここで、<version>は、使用されているDataServerのバージョンです。

1. メモ帳などのテキストエディタでDataServerHostService.exe.config設定ファイルを開きます。

## 高度なデータサーバー構成

2. ファイルの末尾付近で、<connectionStrings>と</connectionStrings>の間の行を探します。HxGN SMART Qualityに使用するデータベースタイプ ( OracleまたはSQL Server ) の項目を変更する必要があります。
3. ソースに対して、connectionString値を変更して、使用するSQL ServerまたはOracleインスタンスを指定します。これには、Central DataServerを実行しているコンピュータの名前を特定する必要があります。SQL Serverのソースの名称を特定するには、SQL Server Management Studioを開きます。



SQL Serverのソースの名称を特定するには、**SQL Server Management Studio**を開きます。

1. **SQL Server Management Studio**ダイアログボックスを開くには：

- Windows 10の場合は、[スタートページ]に「**SQL Server Management Studio**」とキー入力します。プログラムをクリックして、**SQL Server Management Studio**を開きます。
- Windowsの古いバージョンの場合は、[スタート]メニューの[すべてのプログラム]をポイントし、[**Microsoft SQL Server 2014**]をポイントして、次に[**SQL Server Management Studio**]をクリックします。

2. サーバに**接続**ダイアログボックスが表示されます。[サーバー名]ボックスにインスタンス名が表示されます。

名前を特定したら、以下の例に示すように.configファイルで名前を付けることができます。



SQL Serverの例が次に示されます：

SQL

Serverのインスタンス名が**OPERATOR\SQLSERVER2012**であるとしします。その場合には、.configファイルの次の行にあるデータソース値の名前を更新する必要があります：



```
<add name="SQLServer" connectionString="
```

```
data source=SQLSERVERINSTANCENAME;
```



```
Initial Catalog=DataServer;Persist Security  
Info=True;UserID=hexmet_datauser;Password=HEXMET_DATAUSER_PASSWO  
RD;MultipleActiveResultSets=True" providerName="System.Data.SqlClient"/>
```

それはこのように言うべきです：

```
data source=OPERATOR\SQLSERVER2012;
```

4. .configファイルで、初期カタログを、データベースの作成に使用したスクリプトと同じデータベース名に設定します。例えば、「initial catalog = Q-DAS;」と入力すると、Q-DASという名前のデータベースにログオンします。SQL Server Management Studioでデータベースを表示できるようにします。
5. ユーザーIDフィールドには、データベースにログインしているユーザーの名前が表示されます。正しいQ-DASデータベースユーザーIDを持っていることを確認してください。
6. 「パスワード」フィールドには、ユーザーのパスワードが含まれます。正しいQ-DASデータベースパスワードを持っていることを確認してください。



変更を実装するには、サービスを再起動する必要があります。

サービスを再起動する方法の詳細については、「DataServerサービスを再起動する」を参照してください。

## ログファイルの設定

DataServerが毎日ログファイルを生成します。これらのログファイルを使用して、DataServerサービスの問題のトラブルシューティングを行うことができます。HxGN SMART Qualityデータの問題を対処するには、最新のログファイルが必要です。

このフォルダにはログファイルが含まれます：

C:\Program Files\Hexagon\DataServer <version> 64-bit\Logs

ここで、<version>は、使用されているDataServerのバージョンです。

DataServerLogger.configファイルを使用すると、DataServerサービスのログファイル設定を変更できます。DataServerLogger.configファイルは、次のフォルダにあります

：

C:\Program Files\Hexagon\DataServer <version> 64-bit\

ここで、<version>は、使用されているDataServerのバージョンです。

ログファイルに記録する情報に基づいて、次のオプションを有効 ( 1 ) または無効 ( 0 ) にすることができます。



詳細なトラブルシューティングと限られた時間だけでオプションを有効にしてください。オプションを無効にすると、ファイルサイズが小さくなります。

- **LogInfo** - サービスに関する一般情報を記録します。デフォルト値は 1 です。
- **LogError** - サービスエラーを記録します。デフォルト値は 1 です。

## 高度なデータサーバー構成

- **LogSQL -**

これはデータベースに送信されたSQL文を記録します。デフォルト値は0です。

- **LogEnterExit -**

これはすべてのサービス動作に関する詳細情報を記録します。このオプションを有効にすると、限られた時間内に詳細なトラブルシューティングを行うことができます。デフォルト値は0です。

- **LogServiceEnterExit -**

外部アプリケーションから呼び出されるAPIのトレース情報を記録します。デフォルト値は1です。

- **LogImportStats -**

外部アプリケーションからデータをインポートする際の統計情報を記録します。デフォルト値は1です。

- **LogEventInfo -** これはイベントを記録します。デフォルト値は1です。

- **LogParameters -**

これは外部アプリケーションからサービスAPIに送信されるパラメータデータを記録します。デフォルト値は1です。

- **LogPulseEnterExit -**

これは、Pulse動作に関する詳細情報を記録します。このオプションを有効にすると、限られた時間内に詳細なトラブルシューティングを行うことができます。デフォルト値は0です。

- **LogPulseSQL -** これは、Pulse

API用にデータベースに送信されたSQL文を記録します。デフォルト値は0です。

- **LogPulseServiceEnterExit** -  
これは外部アプリケーションから呼び出されるPulse  
APIのトレース情報を記録します。デフォルト値は0です。
- **LogPulseParameters** - これは外部アプリケーションからPulse  
APIに送信されるパラメータデータを記録します。デフォルト値は0です。
- **LogPulseError** - これは、Pulse  
APIのサービスで発生したエラーを記録します。デフォルト値は1です。



変更を実装するには、サービスを再起動する必要があります。

サービスを再起動する方法の詳細については、次の「DataServerサービスを再起動する」を参照してください。

## サービス オプション

ServiceOptions.configファイルを使用して、詳細設定を変更し、追加のDataServerサービス機能を有効にすることができます。ServiceOptions.configファイルが次のフォルダに含まれます。

C:\Program Files\Hexagon\DataServer <version> 64-bit\

ここで、<version>は、使用されているDataServerのバージョンです。

ユーザはこれらのオプションを有効または無効にすることができます：

- **DatabaseConnection** - これによって、OracleまたはSQL  
Serverデータベースを選択できます。既定値はSQL Serverです。

## 高度なデータサーバー構成

- **SaveTheoreticalEachTime** -

これは測定ソフトウェアパッケージから理論データを複製します。デフォルト値は1です。

- **SaveSourceData** -

測定ソフトウェアパッケージから元の測定実績を保存します。デフォルト値は1です。

- **EventBusEnabled** - 360

SIMSシステムのイベントバスをオンにします。この値を0に設定すると、360 SIMSシステムのメッセージング技術としてRabbitMQがオンになります。デフォルト値は0です。

- **CentralDataServer** -

これは、DataServerが中央またはローカルのデータベースを使用するかを指定します。デフォルト値は1です。

- **SPFEnabled** -

これはDataSyncサービスから送信された日のデータのビデオのSPF処理をオンにします。デフォルト値は0です。

- **SPFServerHost** - これはSPFサーバーのホスト名を定義します。

- **SPFServerSite** - SPFサーバーのサイト名を定義します。

- **SPFFileSiteName** - SPFファイルのサイト名を定義します。

- **SPFUserName** - これはSPFのユーザー名を定義します。

- **SPFUserPassword** - これはSPFのユーザーパスワードを定義します。

- **SPFDataFolder** -

SPFのデータフォルダを定義します。このフォルダは、次の構造に似たネットワークディレクトリである必要があります：\\COMPUTERNAME\FOLDER NAME

- **QDASEnabled** - これにより、測定データのQ-DAS移行をQ-DAS固有のデータベーステーブルに移行できます。デフォルト値は1です。データ移行機能のインストールと構成の詳細については、「Q-DAS Readme」を参照してください。
- **QDASDataFolder** - Q-DASが測定データを処理するためのフォルダを定義します。



変更を実装するには、サービスを再起動する必要があります。

サービスを再起動する方法の詳細については、次の「DataServerサービスを再起動する」を参照してください。

## EventBusの設定

EventManagerOptions.configファイルを使用して、EventBus接続を変更することができます。この設定ファイルのこれらの設定は、360 SIMSシステムで使用されます。

EventManagerOptions.configファイルは、このフォルダに見つかります：

C:\Program Files\Hexagon\DataServer <version> 64-bit\

ここで、<version>は、使用されているDataServerのバージョンです。

次のオプションを有効または無効にすることができます：

- **EventBusIpAddress** -  
これはイベントバスのインターネットプロトコル (IP) アドレスとポート番号を定義します。

## 高度なデータサーバー構成

- **EventBusConnectionTimeoutSeconds** -

これは、EventBus接続がタイムアウトになるまでの秒数を定義します。



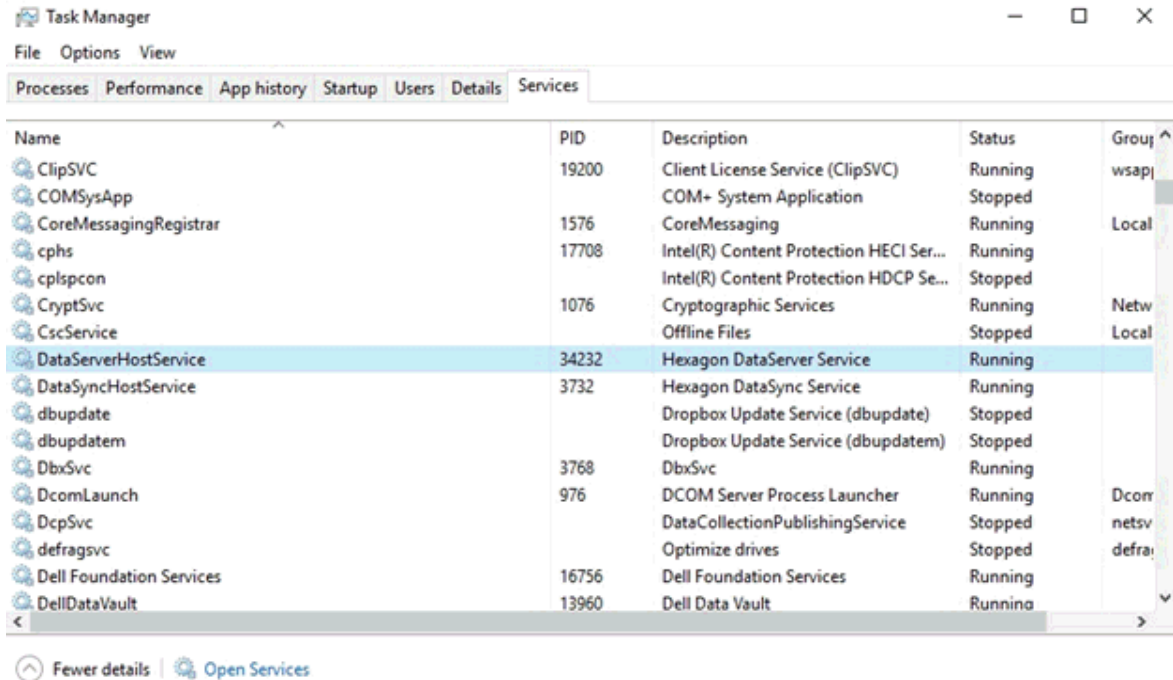
変更を実装するには、サービスを再起動する必要があります。

サービスを再起動する方法の詳細については、次の「DataServerサービスを再起動する」を参照してください。

## DataServerサービスの再起動

設定ファイルの変更に影響を与えるには、DataServerサービスを再起動する必要があります。サービスを再開するには、次の手順を実行します：

1. タスクバーを右クリックし、[タスクマネージャ]をクリックします。これはWindowsタスクマネージャが開きます。
2. [サービス]タブをクリックします。一覧から、**DataServerHostService**を探します。



3. **DataServerHostService**を右クリックし、[停止]を選択します。
4. DataServerHostServiceのステータスが「ステータス」列に「停止」と表示されると、もう一度右クリックして「開始」を選択します。
5. [ステータス]列が、**DataServerHostService**のRunningを表示するように変わります。

---

## 高度なパルスブローカ構成

### Pulse Broker のプロパティ・ダイアログボックス

デフォルトでは、システムエラーが発生した場合、Pulse Brokerサービスは自動的に再起動します。

#### [SMART Quality Pulse

Brokerのプロパティ]ダイアログボックスで設定を変更できます。

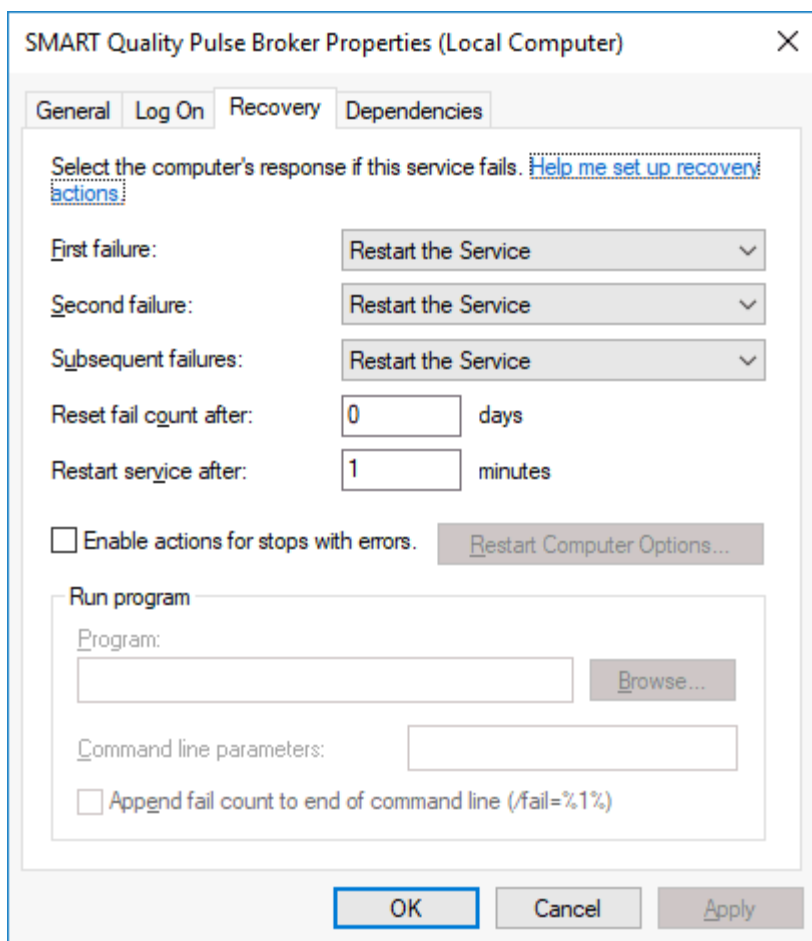


## SMART Quality Pulse

**Broker**のプロパティダイアログボックスを開くには、次の手順を実行します：

1. サービスアプリケーションを開くには、[スタート]ボタンをクリックし、[サービス]を探し、[サービス]をクリックします。
2. 一覧から、**SMART Quality Pulse Broker**を探します。
3. **SMART Quality Pulse**

**Broker**を右クリックし、メニュー一覧から**プロパティ**を選択します。**SMART Quality Pulse Broker Properties**ダイアログボックスが開きます。



## ログファイルの設定

毎日、Pulse

Brokerがログファイルを生成します。これらのログファイルを使用して、Pulse Brokerサービスの問題のトラブルシューティングを行うことができます。HxGN SMART Qualityデータの問題を対処するには、最新のログファイルが必要です。

このフォルダにはログファイルが含まれます：

C:\Program Files\Hexagon\SMART Quality Pulse Broker\logs

SQPulseBrokerLogger.configファイルを使用すると、Pulse Brokerサービスのログファイル設定を変更できます。

このフォルダには、SQPulseBrokerLogger.configファイルがあります：

C:\Program Files\Hexagon\SMART Quality Pulse Broker\

ログファイルに記録する情報に基づいて、次のオプションを有効 ( 1 ) または無効 ( 0 ) にすることができます。



詳細なトラブルシューティングと限られた時間だけでオプションを有効にしてください。オプションを無効にすると、ファイルサイズが小さくなります。

- **LogInfo** - サービスに関する一般情報を記録します。デフォルト値は1です。
- **LogError** - サービスエラーを記録します。デフォルト値は1です。
- **LogEnterExit** -  
これはすべてのサービス動作に関する詳細情報を記録します。このオプションを

## 高度なパルスブローカ構成

有効にすると、限られた時間内に詳細なトラブルシューティングを行うことができます。デフォルト値は0です。

- **LogServiceEnterExit -**

外部アプリケーションから呼び出されるAPIのトレース情報を記録します。デフォルト値は0です。

- **LogPulseInfo -**

すべてのパルスデバイスから受信した環境データを記録します。このオプションを有効にすると、限られた時間内に詳細なトラブルシューティングを行うことができます。デフォルト値は0です。

- **LogPulseEventInfo -**

これは、温度、クリティカル、湿度、警告などの環境イベントを記録します。デフォルト値は0です。

- **LogMMSWebInfo - SMART**

Qualityとの通信に関する情報を記録します。デフォルト値は1です。

## サービス オプション

Settings.configファイルを使用して、詳細設定を変更し、追加のPulse

Brokerサービス機能を有効にすることができます。Settings.configファイルは、このフォルダに含まれます：

C:\ProgramData\Hexagon\SMART Quality Pulse Broker\

次のオプションを有効または無効にすることができます：

- **有効化** - これにより、Pulse

Brokerサービスが有効になります。デフォルト値はTRUEです。

- **ProcessingIntervallInSeconds** -

これは、サービスがデータを処理する頻度 ( 秒単位 ) です。デフォルト値は60です。

- **DataServerProcessingIntervallInSeconds** -

これは、Pulseデータがデータベースに保存される頻度 ( 秒単位 ) です。これにより、**PulseProcessingIntervallInSeconds**に基づいてデータが記録されます。デフォルト値は30です。

- **PulseProcessingIntervallInSeconds** -

サンプルパルスデータを取得する頻度 ( 秒単位 ) です。これにより、データベースはすべての値ではなく環境値のサンプルを格納できます。これにより、パフォーマンスが向上し、ネットワークトラフィックとデータベースサイズが最小限に抑えられます。デフォルト値は20です。



センサーごとに1秒ごとにデータが送信された場合、Pulse

Brokerは工場出荷時にハブごとにセンサーごとに1分あたり3つのサンプル ( 20秒間隔で1回 ) を保存します。

すべてのデータを保存するには、値を1に変更する必要があります。この間隔は、環境イベントを保存する速度には影響しません。この間隔は、SMART Qualityのレポート時間に影響します。

- **MMSWebProcessingIntervallInSeconds** - これは、Pulse

BrokerサービスがSMART

Qualityと通信する頻度 ( 秒単位 ) です。デフォルト値は30です。

## 高度なパルスブローカー構成

- **MMSWebAddress** - SMART Quality Webサイトのアドレスを定義します。
- **ValidateMosquitto** -  
これは、mosquittoブローカーのインストールを検証し、サーバーの上で実行されます。限られた時間内に事前トラブルシューティングを行う場合は、このオプションをオフにすることができます。デフォルト値はTRUEです。

## DataServer

SQLPulseBrokerHostService.exe.configファイルを使用すると、DataServerのアドレスを変更できます。このフォルダには、SQLPulseBrokerHostService.exe.configファイルが含まれます。

C:\Program Files\Hexagon\SMART Quality Pulse Broker\

DataServerサービスの場所を変更する場合は、<client></client>タグ内のlocalhostアドレスも更新する必要があります。

```
<client>
<endpoint
address="http://localhost/DataServerWCFService/streaming"
binding="basicHttpBinding" bindingConfiguration="basic"
contract="DataServerWCFService.IDataServerWCFService"
name="basic" />
<endpoint address="http://localhost/DataServerWCFService/wsHttp"
binding="wsHttpBinding" bindingConfiguration="wsHttp"
contract="DataServerWCFService.IDataServerWCFService"
name="wsHttp" />
</client>
```

## ポート

### Pulse

Brokerはポート4233を感知します。このポートがオフになっている場合は、IT担当者

だけが有効にできます。web.configファイルを使用すると、新しいポートを追加できます。Pulse Brokerのアドレスを変更する必要があります。

このフォルダにweb.configファイルがあります：

```
C:\inetpub\<SMART Quality installation directory>\
```

新しいポートを追加するには、次の設定を変更します：

```
<add key="SQPulseBrokerPortNumber" value="4233"/>
```

SQPulseBrokerHostService.exe.configファイルから、Pulse Brokerサービスアドレスを変更する必要があります。

このフォルダには、SQPulseBrokerHostService.exe.configファイルが含まれます。

```
C:\Program Files\Hexagon\SMART Quality Pulse Broker\
```

次の設定を変更する必要があります：

```
<baseAddresses>  
<add  
baseAddress="http://localhost:4233/SQPulseBrokerService" />  
</baseAddresses>
```

---

## 高度なデータ同期設定

DataSyncサービスは、360 SIMSを持つコンピュータにのみインストールし、HxGN SMART Quality ( Q-DASや今日のビデオなど ) にデータを送信する必要がある場合は、インストールする必要があります。

## ログファイルの設定

DataSyncが毎日ログファイルを生成します。これらのログファイルを使用して、Data Syncサービスの問題のトラブルシューティングを行うことができます。HxGN SMART Qualityデータの問題を対処するには、最新のログファイルが必要です。

このフォルダにはログファイルが含まれます：

C:\Program Files\Hexagon\DataSync <version> 64-bit\Logs

ここで、<version>は、使用されているDataSyncのバージョンです。

DataSyncLogger.configファイルを使用すると、DataSyncサービスのログファイル設定を変更できます。DataSyncLogger.configファイルは、このフォルダにあります：

C:\Program Files\Hexagon\DataSync <version> 64-bit\

ここで、<version>は、使用されているDataSyncのバージョンです。

ログファイルに記録する情報に基づいて、次のオプションを有効 ( 1 ) または無効 ( 0 ) にすることができます。



詳細なトラブルシューティングと限られた時間だけでオプションを有効にしてください。オプションを無効にすると、ファイルサイズが小さくなります。

- **LogInfo** - サービスに関する一般情報を記録します。デフォルト値は 1 です。
- **LogError** - サービスエラーを記録します。デフォルト値は 1 です。
- **LogEnterExit** -  
これはすべてのサービス動作に関する詳細情報を記録します。このオプションを

有効にすると、限られた時間内に詳細なトラブルシューティングを行うことができます。デフォルト値は0です。

- **LogServiceEnterExit** -

外部アプリケーションから呼び出されるAPIのトレース情報を記録します。デフォルト値は1です。



変更を実装するには、サービスを再起動する必要があります。

サービスを再起動する方法の詳細については、「DataServerサービスの再起動」を参照してください。

## サービス オプション

処理する一時ファイルの領域の場所を含むServiceOptions.configファイルを使用することができます。ServiceOptions.configファイルが次のフォルダに含まれます：

C:\ProgramData\Hexagon\DataSync\

Settings.configファイルを使用して、詳細設定を変更し、追加のDataSyncサービス機能を有効にすることができます。Settings.configファイルは、このフォルダに含まれます：

C:\ProgramData\Hexagon\DataSync\

ユーザはこれらのオプションを有効または無効にすることができます：

- **Enabled** - DataSyncサービスを有効にします。デフォルト値はTRUEです。



## 高度なデータ同期設定

- **PollingIntervallInSeconds** -

サービスがデータを同期する頻度です。デフォルト値は30です。



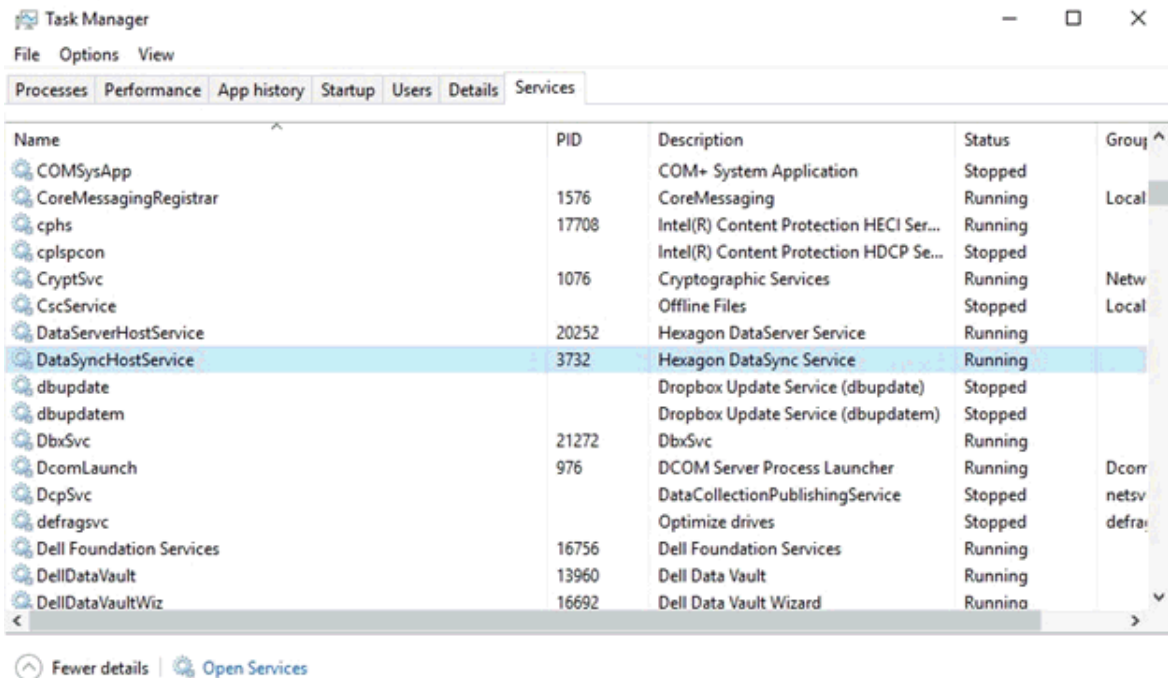
変更を実装するには、サービスを再起動する必要があります。

サービスを再起動する方法の詳細については、次の「**DataServerサービスの再起動**」を参照してください。

## DataSyncサービスの再起動

設定ファイルの変更に影響を与えるには、DataSyncサービスを再起動する必要があります。サービスを再開するには、次の手順を実行します：

1. タスクバーを右クリックし、[タスクマネージャ]をクリックします。これはWindowsタスクマネージャが開きます。
2. [サービス]タブをクリックします。一覧から**DataSyncHostService**を探します。



3. **DataSyncHostService**を右クリックし、[停止]を選択します。
4. DataServerHostServiceのステータスが「ステータス」列に「停止」と表示されると、もう一度右クリックして「開始」を選択します。
5. [ステータス]列は、**DataSyncHostService**の実行中の表示に変わります。

---

## 電子メールサーバーのセットアップ

### 新規HxGN SMART

Qualityアカウントが作成されると、アカウントを検証するために登録Eメールアドレスに通知Eメールが届きます。このEメールにはユーザー名と一時パスワードも記載されています。

Eメールは下記フォーマットから成ります。

[タイトル]

電子メールサーバーのセットアップ

SMART Qualityアカウントが作成されました。

ユーザー名: [ユーザー名]

パスワード: [パスワード]

最初のログイン時にパスワードを変更してください。

ありがとうございます!

SMART Quality

例

SMART Qualityへようこそ

SMART Qualityアカウントが作成されました。

ユーザー名: SMARTQualityEmailUser1

パスワード: 123456

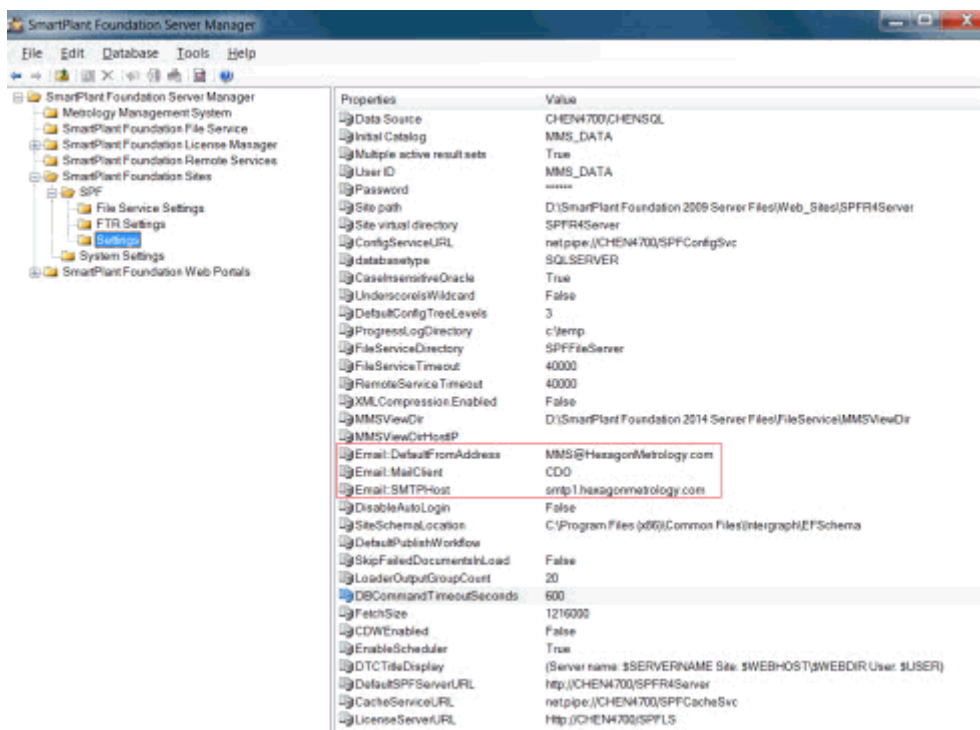
最初のログイン時にパスワードを変更してください。

ありがとうございます!

SMART Quality

設定を構成するには下記のステップに従います：

1. スタートをクリックして**すべてのプログラム**をポイントし、**SmartPlant Foundation**  
サーバーマネージャーを右クリックして**管理者として実行**をクリックします。
2. **SmartPlant Foundation Server Manager**ダイアログボックスの左ペインで、**SmartPlant Foundation Sites**を展開し、**SPF**を展開して**設定**をクリックします。



### 3. SmartPlant Foundation Server Manager

ダイアログボックスの右ペインで、Email:DefaultFromAddress,

Email:MailClientおよびEmail:SMTPHostが下記のプロパティを表示します:

- **Email:DefaultFromAddress -**

このプロパティはシステムが生成するEメールの返信アドレスを設定します。例えば、値はSmartQuality@hexagon.comに設定されます。

- **Email:MailClient -**

このプロパティはCDOまたはJMAILソフトウェアを介して自動Eメールを送信します。例えば、値は CDOに設定されます。

- **Email:SMTPHost -**

このプロパティはシステムが生成するEメールを送信するEメールサーバーの名前です。例えば、値はsmtp1.hexagonmetrology.comに設定されます。

## ログオンの設定

HxGN SMART QualityおよびInspectの設定は、次のいずれかの方法で設定できます：

ユーザー名とパスワードを使用してログオンします **(匿名認証)**。

ユーザー名とパスワードを使用してSMART

QualityおよびInspectアプリケーションにログオンするには、匿名認証でSMART

QualityおよびSPFを設定する必要があります。これらの設定で任意のコンピュータを使用できます。

このケースでは、ユーザー名とパスワードを使用して、SMART

QualityおよびInspectアプリケーションにログオンすることしかできません。このサインイン画面では、ドメインアカウントオプションは表示されません。

### ドメインアカウントでのログオン **(Windows認証)**

Windows認証を使用してSMART

QualityおよびInspectアプリケーションにログオンするには、Windows認証でSMART

QualityおよびSPFを設定する必要があります。同ドメインでコンピュータを使用しなければなりません。オペレーティングシステム **(OS)**

のログオンアカウントはドメインアカウントを使用する必要があります。

このケースでは、ドメインアカウントまたはユーザー名およびパスワードのいずれかを使用して、SMART

QualityおよびInspectアプリケーションにログオンすることができます。

## 混合パターンでのログオン

### SMART

QualityをWindows認証で、SPFを匿名認証でそれぞれ設定することができます。コンピュータの仕様は下記のいずれかになります:

- コンピュータがドメイン内にあり、ドメインアカウントでログオンされる。
- コンピュータがドメイン内にあり、ユーザー名とパスワードでログオンされる。
- コンピュータがドメイン内になく、ユーザー名とパスワードでログオンされる。

上記すべてのケースで、ドメインアカウントまたはユーザー名およびパスワードのいずれかを使用してSMART

Qualityアプリケーションにログオンすることができます。Inspectはユーザー名とパスワードしか使用できません。

### サーバの設定

これらのサーバー設定を設定する必要があります:

- SMART Quality ウェブサイトとそのアプリケーションプール
- SPFが使用する3つのウェブサイトは ( MMSServer、MMSConfigSvc、MMSCacheSvc ) とそのアプリケーションプール



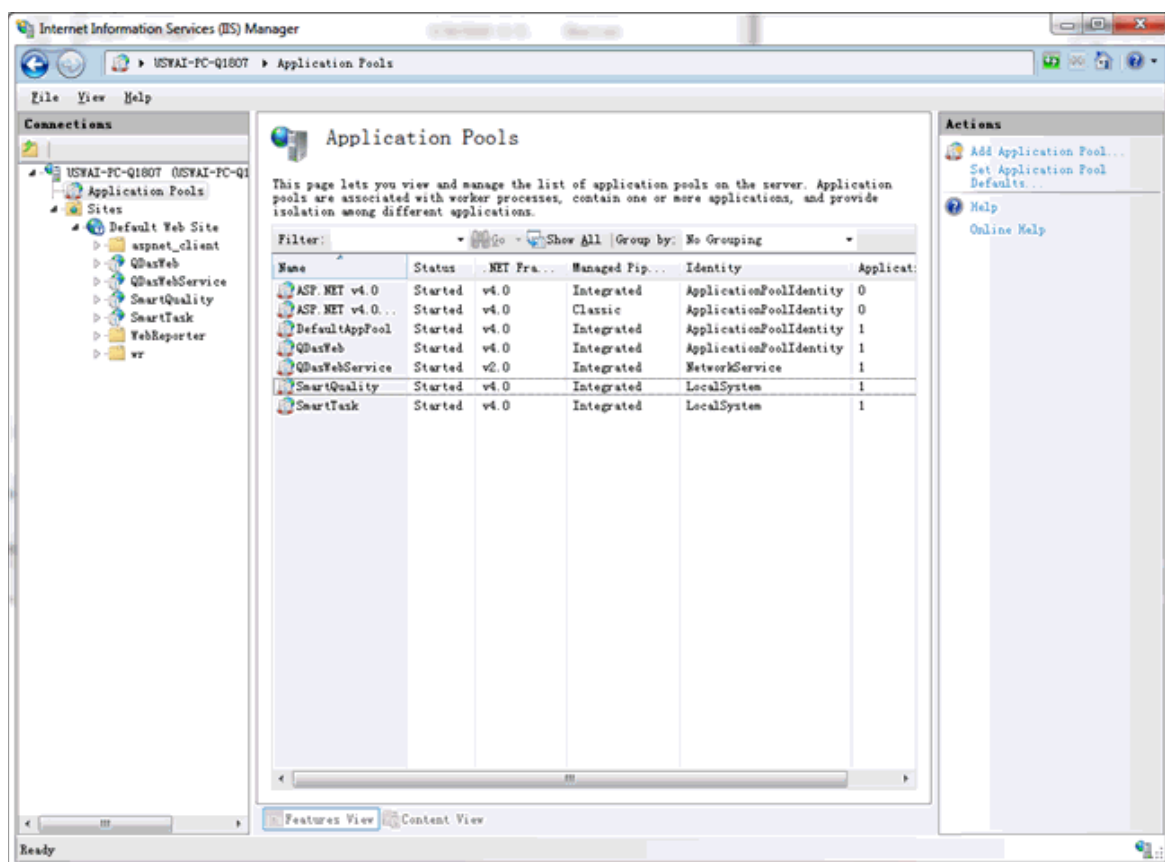
4つのアプリケーションプールはすべて同じ設定でなければなりません。

これらのサーバー設定については、「認証の設定」と「アプリケーションプールの設定」を参照してください。

## 認証の設定

必要な場合は**認証**ウィンドウにアクセスして認証設定を変更できます:

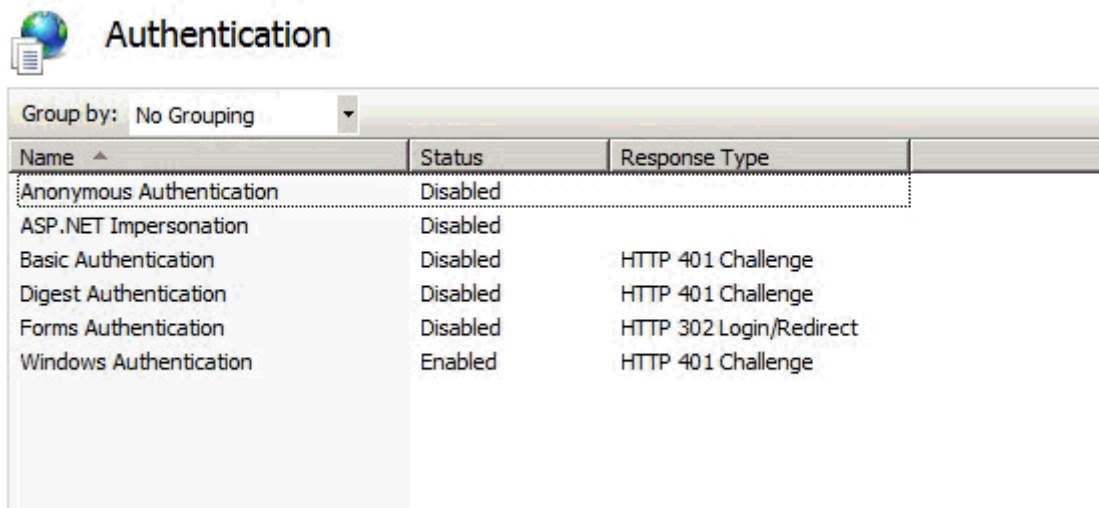
1. サーバーで**スタート**をクリックします。プログラム及びファイルの**検索**に**IIS**を入力し、次に、**Internet Information Services (IIS) Manager**をクリックして**Internet Information Services (IIS) Manager**ダイアボックスを開きます。



[Internet Information Services (IIS) Manager]ダイアボックス

2. コンピュータノードを展開し、**サイト**を展開し、**デフォルトウェブサイト**を展開して、**SPFサーバーサイト** (例えば、**SmartQualityTesting**) を選択します。

3. IISエリアで**認証**をダブルクリックして**認証**ウィンドウを表示します。



Name	Status	Response Type
Anonymous Authentication	Disabled	
ASP.NET Impersonation	Disabled	
Basic Authentication	Disabled	HTTP 401 Challenge
Digest Authentication	Disabled	HTTP 401 Challenge
Forms Authentication	Disabled	HTTP 302 Login/Redirect
Windows Authentication	Enabled	HTTP 401 Challenge

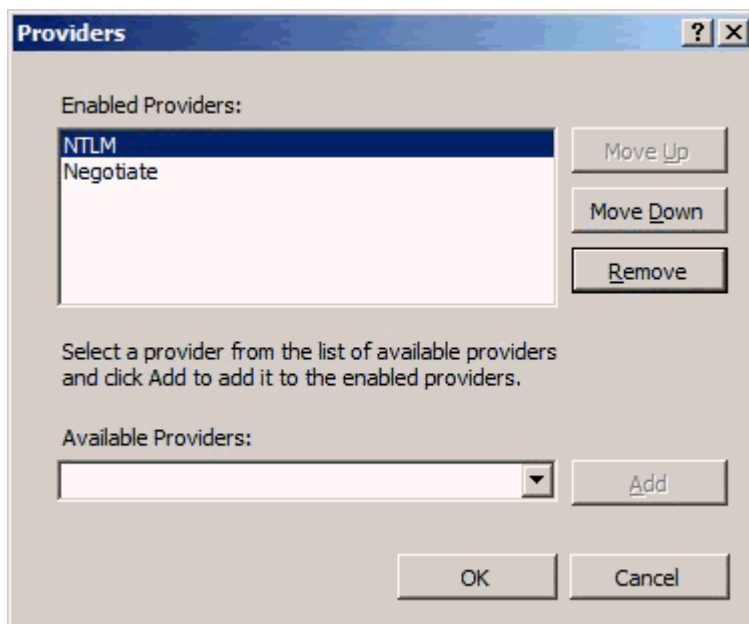
4. [名前]列から、[匿名認証]または[Windows認証]のいずれかを選択します。右クリックし、[有効]を選択します。他のすべてのオプションが**無効である**ことを確認してください。

- **Windows認証** -

ユーザーの認証のWindowsログオン情報を使用するようにシステムに指示します。

- A. ステータスを**有効**に設定すると、プロバイダオプションを使用できます。
- B. プロバイダをクリックして**プロバイダ**ダイアログボックスを開きます。





[プロバイダ]ダイアログボックス

- C. **NTLM**を選択し上に**移動**をクリックして、それを最上部に移動します。[OK]をクリックします。
- D. 次に、アプリケーションプール内のいくつかの設定を変更する必要があります。これを行う方法については、「Windows認証」を参照してください。

- **匿名認証-**

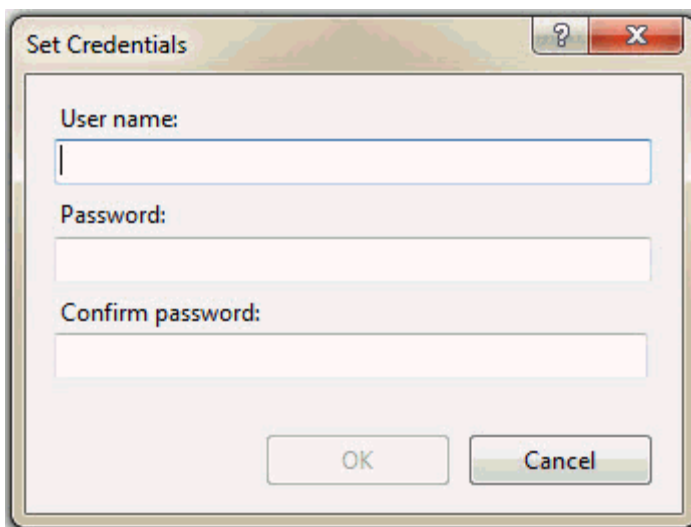
ユーザーの認証にアカウント名とパスワードを使用するようシステムに指示します。

- A. 次に、アプリケーションプール内のいくつかの設定を変更する必要があります。詳細については、「匿名認証」を参照してください。

# アプリケーションプールの設定

## Windows 認証

1. 匿名認証から、ステップ1～手順ステップを実行します。
2. カスタムアカウントを選択します。設定をクリックして認証情報の設定ダイアログボックスを開きます。



[認証情報の設定]ダイアログボックス

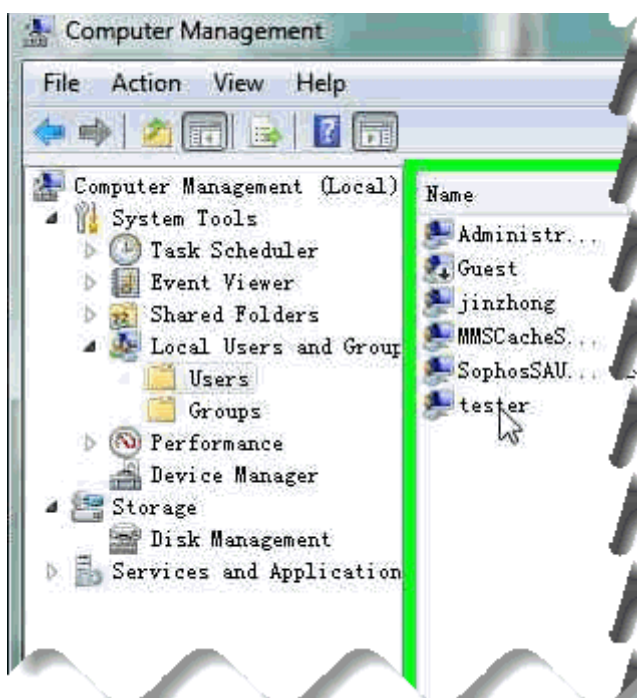
ユーザー名ボックスで、ドメインユーザーの名前を入力します。パスワード及びパスワードの確認ダイアログボックスにパスワードを入力します。

3. [OK]をクリックします。[資格情報の設定]ダイアログボックスが閉じます。
4. [OK]をクリックして、[アプリケーションプールID]ダイアログボックスを閉じます。
5. [詳細設定]ダイアログボックスから、[OK]をクリックします。

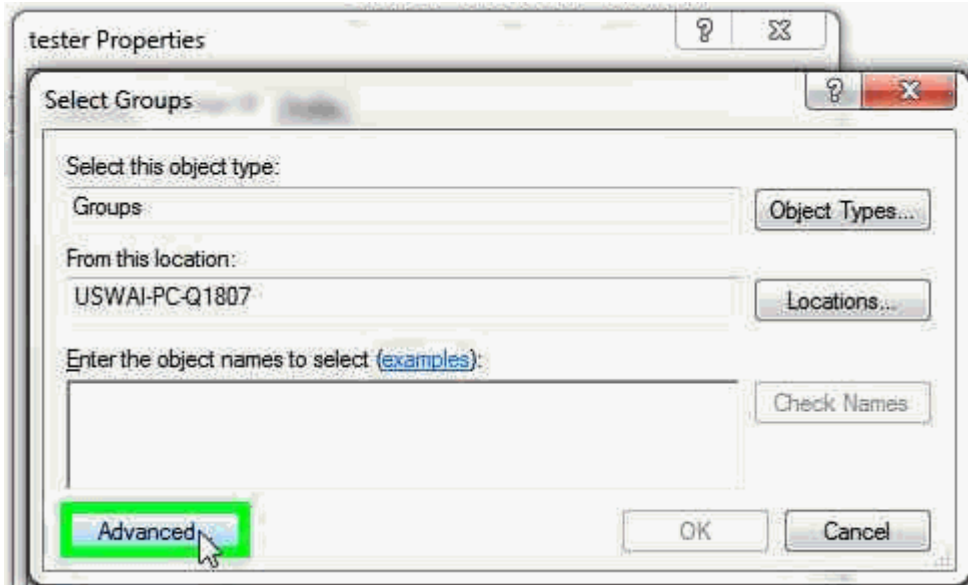
## ログオンの設定

### ユーザーグループにドメインユーザーを追加すること

1. [スタート]をクリックし、[コンピュータ]を右クリックし、メニューリストから[管理]をクリックして[コンピュータの管理]画面を開きます。
2. [コンピュータの管理]画面の左ペインで、[ローカルユーザーとグループ]をクリックします。
3. 右ペインでユーザフォルダをダブルクリックし、**テスター**をクリックして**テスター**のプロパティダイアログボックスを開きます。

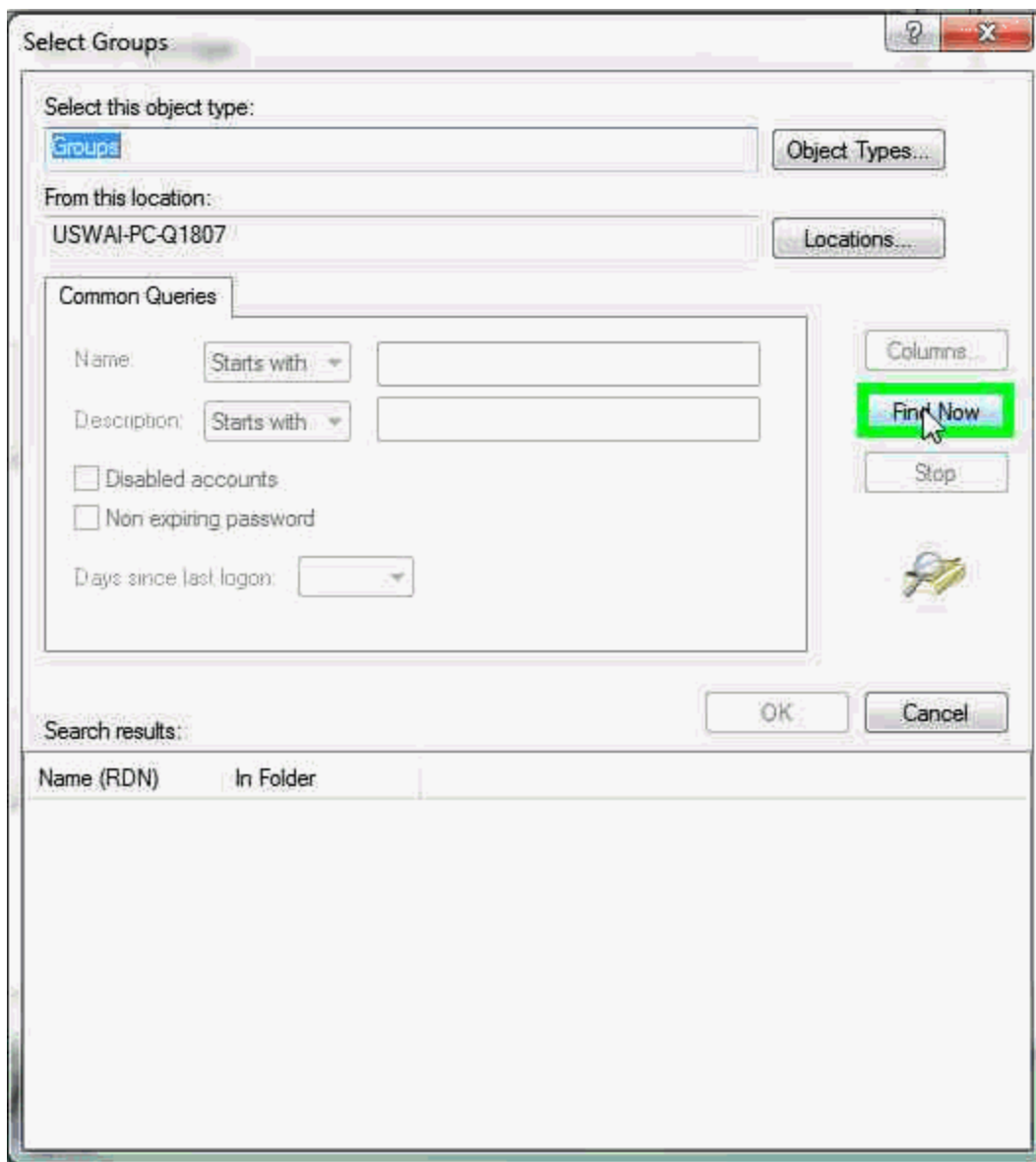


4. **テスター**のプロパティダイアログボックスから、**メンバー**タブをクリックしてから、**追加**をクリックして**グループの選択**ダイアログボックスを開きます。
5. [詳細設定]ボタンをクリックします。

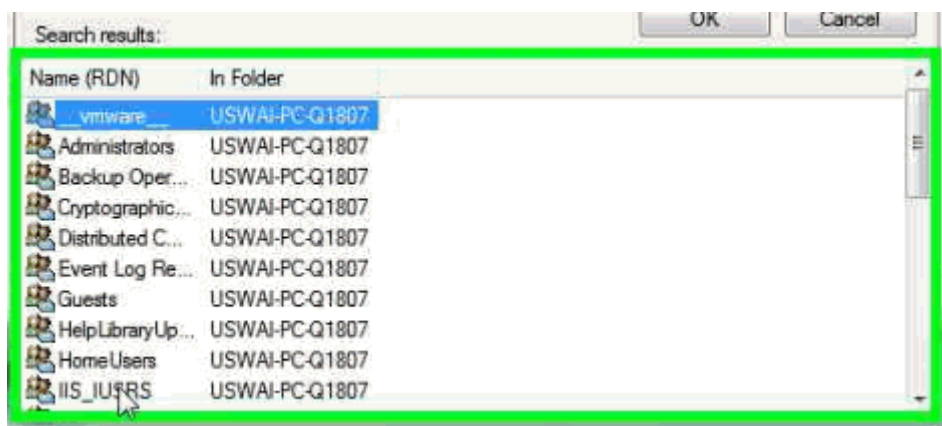


6. ダイアログボックスの詳細エリアから、**[検索開始]**をクリックして、指定した場所内のグループを検索します。

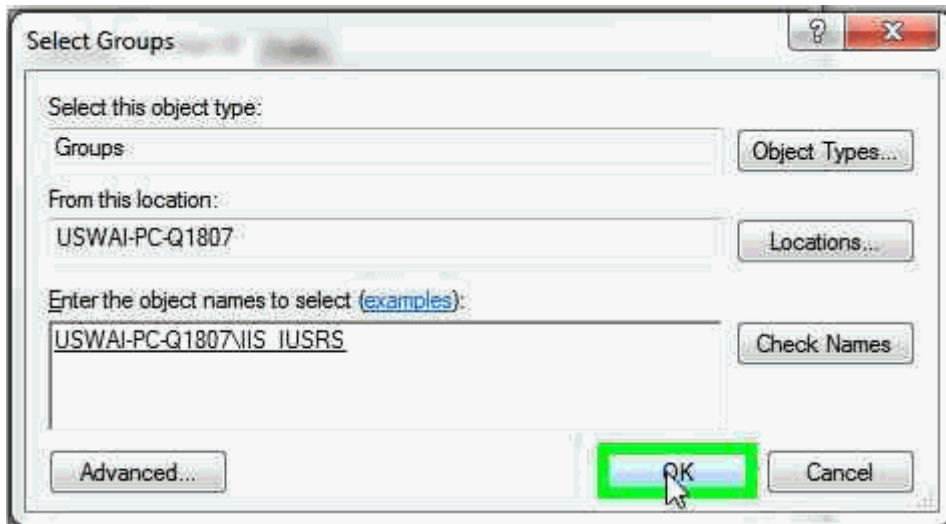
## ログオンの設定



7. 検索結果エリアから、リストから **IIS\_IUSR**項目をダブルクリックします：

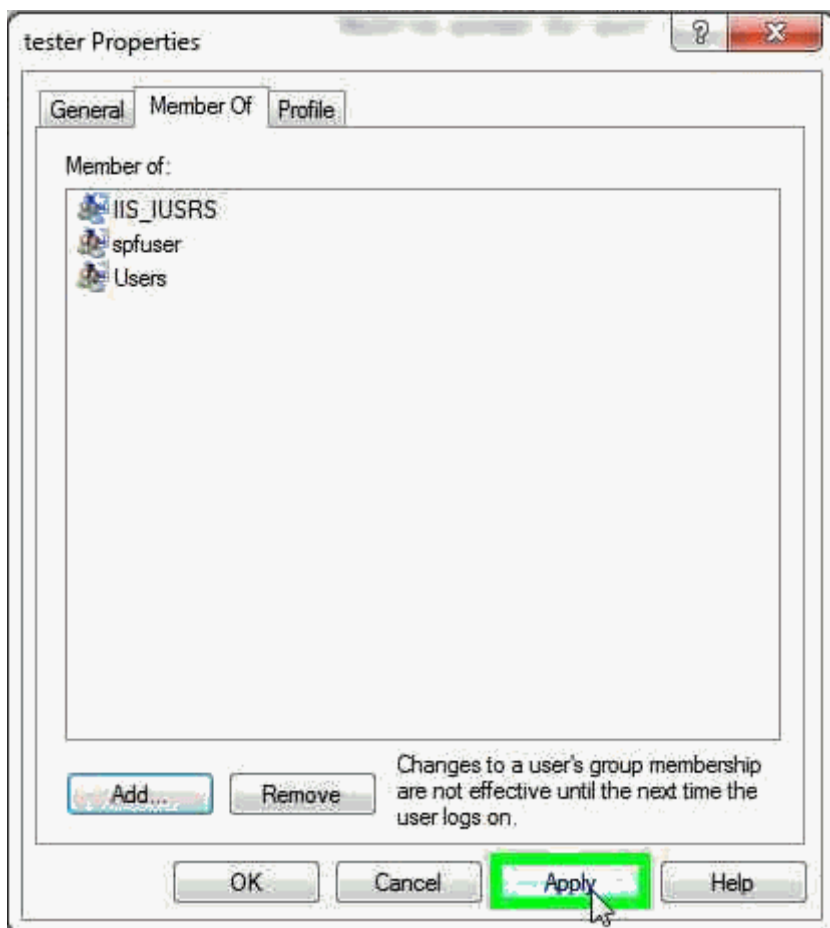


8. [OK]をクリックして[グループの選択]ダイアログボックスを閉じます。



9. テスターのプロパティダイアログボックスから、**IIS\_IUSRS**を選択します。次に、[追加]をクリックして[グループの選択]ダイアログボックスを開きます。
10. [詳細設定]ボタンをクリックします。詳細エリアから、[検索開始]をクリックします。
11. 検索結果エリアから、リストから**spfuser**項目をダブルクリックします：
12. [OK]をクリックして[グループの選択]ダイアログボックスを閉じます。
13. テスターのプロパティダイアログボックスで、適用をクリックしてから、**OK**をクリックしてこのダイアログボックスを閉じます。

## ログオンの設定



サーバー及びクライアントは同一ドメインになければなりません。

### HxGN SMART Quality URLをローカルイントラネットに追加すること

Windows認証を使用する場合、SMART Quality

URLをローカルイントラネットに設定する必要があります。

1. インターネットエクスプローラのツールメニューで、インターネットオプションをクリックして、インターネットオプションダイアログボックスを開きます。
2. セキュリティタブをクリックしローカルイントラネットゾーンを選択して、サイトををクリックしローカルイントラネットダイアログボックスを開きます。

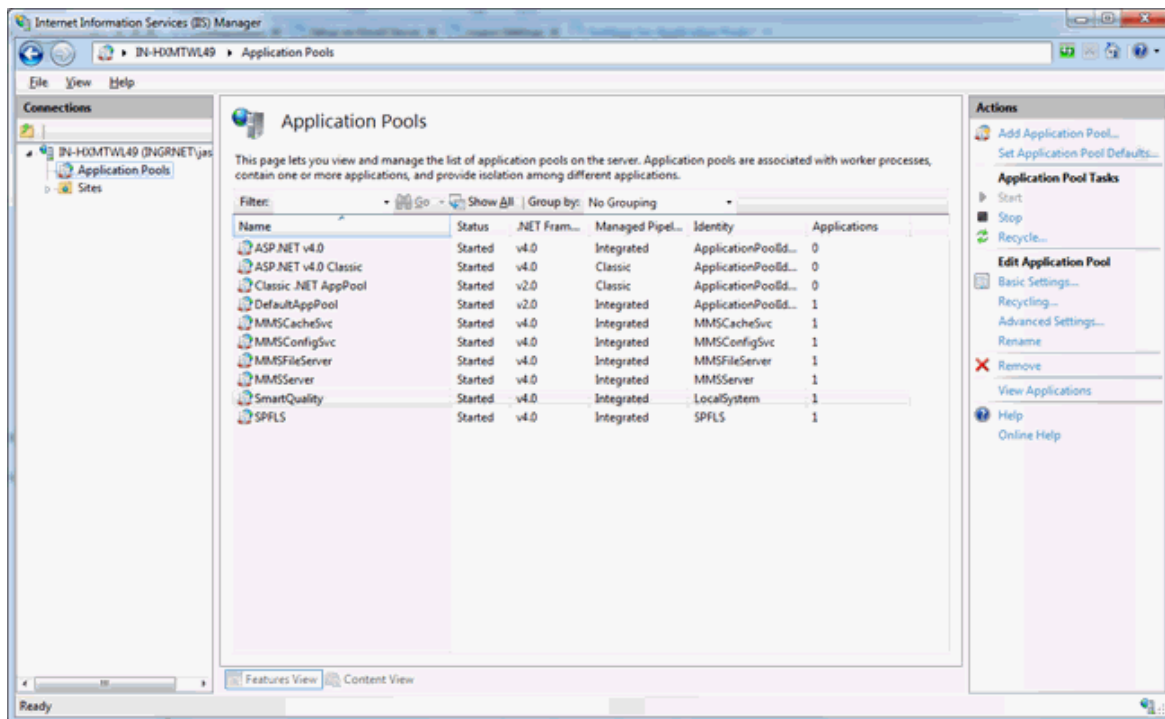
3. **高度**をクリックしてローカルイントラネットダイアログボックスを開きます。
4. このウェブサイトをゾーンに**追加**ボックスで、**SMART Quality**のURLを入力します。追加をクリックします。
5. **閉じる**をクリックします。
6. **OK**をクリックしてローカルイントラネットダイアログボックスを閉じます。
7. **OK**をクリックしてインターネットオプションダイアログボックスを閉じます。

## 匿名認証

1. サーバーで**スタート**をクリックし、**検索プログラムおよびファイル**でIISを入力し、**Internet Information Services (IIS) Manager**をクリックして、**Internet Information Services (IIS) マネージャ**ダイアログボックスを開きます。
2. コンピュータノードを展開して**アプリケーションプール**を選択します。
3. **アプリケーションプール**エリアの**機能ビュー**で、**SPF**サーバーサイト (例えば、**SmartQuality**) を選択します。

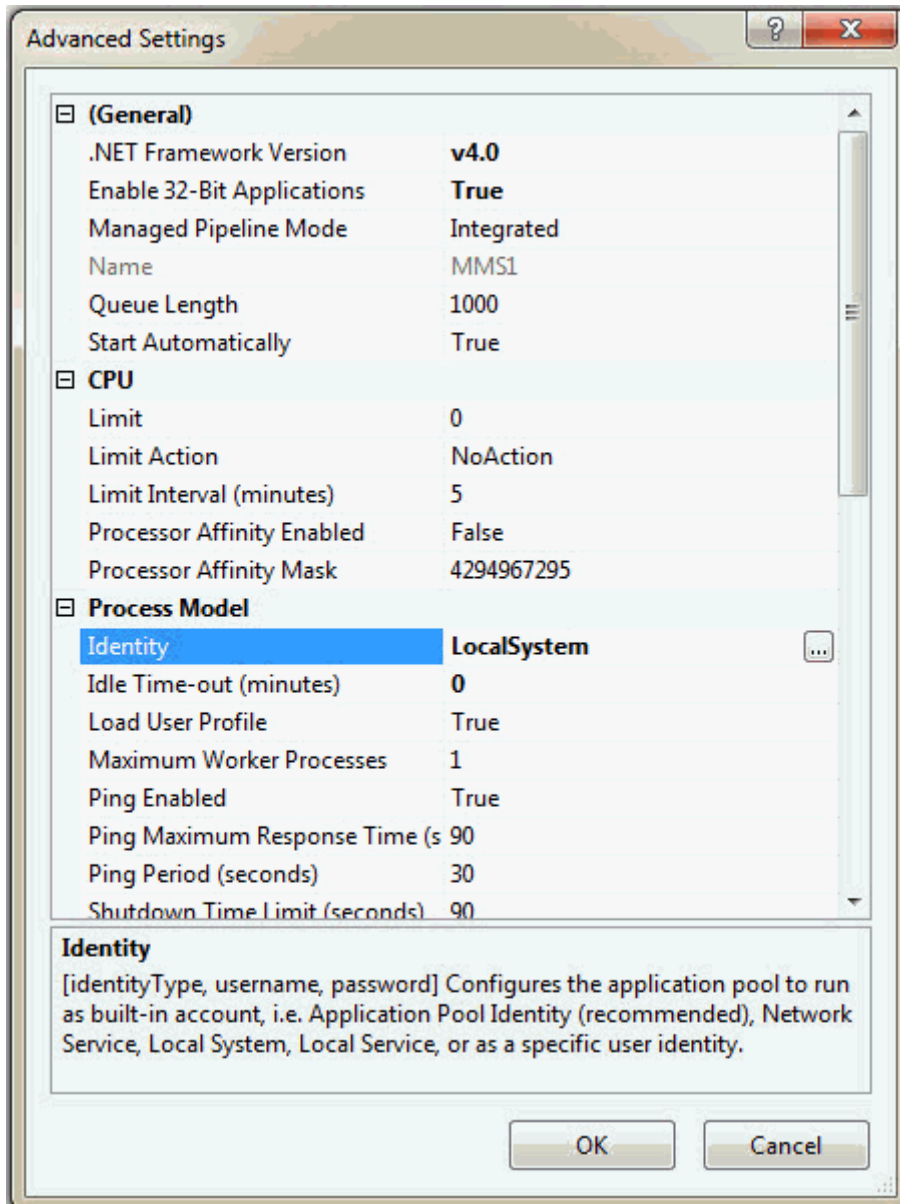


## ログオンの設定

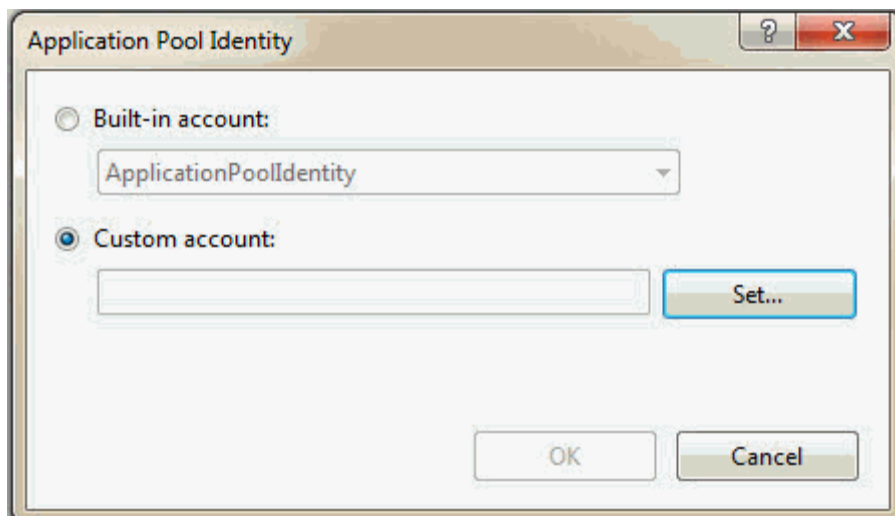


4. 右クリックして**高度な設定**を選択し、**高度な設定**ダイアログボックスを開きます

。



5. 処理モデルエリアでアイデンティティを選択し、参照をクリックしてアプリケーションプールのアイデンティティダイアログボックスを開きます。



[アプリケーションプールアイデンティティ]ダイアログボックス

6. ビルトインアカウントを選択します。リストから**LocalSystem**を選択します。
7. [OK]をクリックして、[アプリケーションプールID]ダイアログボックスを閉じます。
8. [詳細設定]ダイアログボックスから、[OK]をクリックします。

---

# SMART Quality

## HxGN SMART

Qualityアプリケーションを設定して、リモートウェブアプリケーションなどのようなカスタムURLを指すカスタムタブを含めることができます。これは、SMART Qualityアプリケーションに結合する他のWebベースのアプリケーションがある場合に役立ちます。以下の例は、<http://www.hexagonmi.com>を指すHexagonタブを追加する方法を示しています:

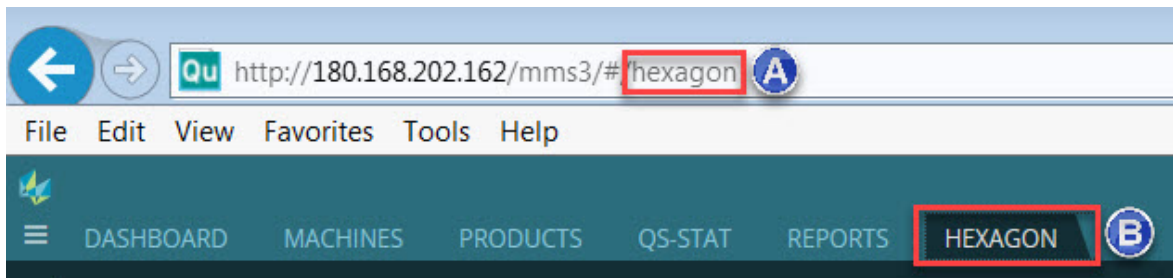
1. SMART

Qualityがインストールされると、次のフォルダに移動します。C:\inetpub\wwwroot\SmartQuality\Settings

2. テキストエディタで**ServerSettings.xml**ファイルを開きます。
3. <ServerSettings>ノード内に<CustomTabs>ノードを追加する必要があり、このノードには、次のようにURLを指す<tab>ノードが含まれています。

```
<ServerSettings>  
  
<設定 ... />  
  
<CustomTabs>  
  
<tab title="hexagon" url="http://www.hexagonmi.com"  
name="Hexagon" />  
  
</CustomTabs>  
  
</ServerSettings>
```

4. 変更が完了したら、ファイルを保存します。
5. 次に、ブラウザを再起動し、SMART Quality  
ウェブサイトにログインして、新しいタブを表示します：



A - これは、<tab>ノードのタイトル属性に由来します。B -  
これは、<tab>ノードの名称属性に由来します。

## ユーザー名の受け渡し

リモートウェブアプリケーションまたはカスタムタブとして追加するURLには、SMART Qualityアプリケーションからユーザー名を追跡する機能があります。

## SMART Quality

新しいタブが読み込まれると、そのタブで使用されるWebアプリケーションにユーザー名が自動的に渡されます。これは自動的に発生し、ユーザは見ることはできません。

データを渡すコードは次の形式をとります：

<http://www.hexagonmi.com?UserCode=testuser1&Source=SmartQuality>

リモートWebアプリケーションに渡される2つのパラメータは、**UserCode**と**Source**です：

**UserCode**はユーザー名を渡します。上の例では、

「testuser1」をユーザー名として渡しています。

**ソース**はソースアプリケーション名を渡します。これは情報元です。上記の例では、「

SmartQuality」をソースとして渡しています。